

第7編 教 育

教 育 行 政  
教 育 施 設  
学 校 教 育  
社 会 教 育



# 第1章 教育行政

教育総務課

昨今、少子高齢化や生活の多様化が急速に進むなど、社会環境は大きく変化しており、教育に対するニーズは多種多様化し、行政サービスに対する需要も質、量共に増大している。一方で、日本経済の先行きについては依然として不透明な状況で、地方財政も引き続き厳しい状況である。

しかし、教育は未来への先行投資とも言われるため、市民一人ひとりの夢や希望の実現に向けた生涯を通じての人づくりを支援していく必要があるものと考えます。

こうした状況の中、本市の教育においては、「未来の礎を築く教育のまち 平塚」を基本理念として、「第2期教育振興基本計画～奏（かなで）プランⅡ～」を令和2年1月に策定した。これは、平成22年3月策定の「平塚市教育振興基本計画～奏プラン～」の方向性を受け継ぐものであるとともに、総合的な教育施策の根本となる方針である「平塚市教育大綱」に基づくものである。この大綱は、市長と教育委員会で構成する「総合教育会議」において議論の上に策定されたものである。

「平塚市総合計画」に連動する教育大綱や奏プランⅡに基づき、次世代を担う子どもたちの学びと成長、そして市民の生涯学習を促進する施策を着実に進めている。

## 1 教育大綱及び教育振興基本計画の推進

### (1) 概要

#### ア 平塚市教育大綱

平成26年度の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正（平成27年4月施行）を受けて、平塚市の目指す基本的な教育、学術及び文化の振興に関する総合的な推進を図ることを目的としたもの

実施期間 令和2年度～令和5年度 4年間（令和2年2月策定）

#### <基本理念>

「未来の礎を築く教育のまち平塚」

#### <基本方針>

「確かな学力と豊かな育ちを培う教育環境の充実」

「子どもの育ちを支援する環境の充実」

「文化芸術やスポーツ活動にふれあう環境の充実」

#### イ 第2期平塚市教育振興基本計画～奏プランⅡ～

国の教育振興基本計画や県のかながわ教育ビジョンの策定を受けて、本市の教育委員会が取り組むべき理念・目標等を掲げ、それを達成するための取組を記載した計画

基本計画 令和2年度～令和6年度 5年間（令和2年1月策定）

#### <基本理念>

「未来の礎を築く教育のまち平塚」

実施計画 年度ごとに作成（平塚市 教育の方針）

＜基本方針＞

基本方針1 「確かな学力と豊かな育ちを培う教育環境の充実」

基本方針2 「子どもの育ちを支援する環境の充実」

基本方針3 「文化芸術やスポーツ活動にふれあう環境の充実」

(2) 進行管理

平成19年度の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正（平成20年4月施行）を受けて、教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、点検・評価が義務付けられた。本市においても、平成20年度以降、主に教育の方針（奏プランⅡ実施計画）に掲載する事業を対象に教育に関して学識経験を有する者の知見を活用しながら点検・評価を行っている。

(3) 令和4年度（2022年度）平塚市教育の方針

＜基本理念＞

「未来の礎を築く教育のまち平塚」

＜基本方針＞

基本方針1 「確かな学力と豊かな育ちを培う教育環境の充実」

子どもたちの生きる力を育むため、知識・技能だけでなく、学習意欲や考える力を含む「確かな学力」の向上を図るとともに、安心・安全で快適に学べる環境を整備します。また、子どもたち一人ひとりの健全な心と体を培い、豊かな人間性を育むとともに、人権を尊重した「いのち」と「こころ」を大切にする教育を推進します。

基本方針2 「子どもの育ちを支援する環境の充実」

子どもや保護者の多様なニーズに対応するため、相談体制の充実を図るとともに、子育てを社会全体で支援する取組を進めます。また、学校における安全対策を強化するとともに、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズを把握し、それぞれに合った適切な支援や援助に努めます。

基本方針3 「文化芸術やスポーツ活動にふれあう環境の充実」

生涯学習に対する市民ニーズに対応するため、多くの学習機会を提供するとともに、様々な学習活動を支援し、豊かな生活をおくることができる地域社会の実現をめざします。また、活力ある生き生きとした社会を形成するため、市民が様々な形でスポーツと関われる環境整備を進めます。

## 2 教育委員会

### 教育委員会会議 議題月別集計表

#### ◎付議事項

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
基本方針の決定												1	1
規則及び規程の制定及び改廃			3			1		1				7	12
議会の議決を経るべき事案		1			2			1			3		7
事務局職員任免等							1	1				1	3
県費負担教職員任命等の内申など						1					1		2
附属機関委員の任命等	4	4	3	1	2					1		2	17
学校の区域の設定及び変更													0
教科用図書採択		1		3						1			5
市指定重要文化財の指定等									1				1
修学支援生決定	1											1	2
儀式・表彰						1					1		2
請願・陳情等													0
教育に関する事務の点検・評価								1					1
その他							1		2			2	5
計	5	6	6	4	4	3	2	4	3	2	5	14	58

#### ◎報告事項

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
市議会報告			1			1			1			1	4
要綱等制定改廃													0
児童生徒指導		1						1	1				3
服務関係			1					1					2
表彰関係										1	1		2
学校教育関係事業・催物		2				1			1		1	2	7
公民館関係事業・催物													0
スポーツ課関係事業・催物									1	1			2
図書館関係事業・催物													0
博物館関係事業・催物		2					1				1	1	5
美術館関係事業・催物													0
その他社会教育関係事業・催物													0
その他	1	2							1	1			5
計	1	7	2	0	0	2	1	2	5	3	3	4	30

## 第2章 教育施設

教育施設課

### 第1節 学校教育施設整備

児童・生徒の安全確保と教育環境及び教職員の執務環境の向上を図るとともに、老朽化した校舎等の維持管理のため、改修工事等を実施した。

#### 1 施設の主な整備内容

整備内容	学校名	備考
小学校トイレ修繕	崇善、なでしこ	
小学校大規模改修工事	大野、土屋	
小学校屋体アリーナ照明LED化修繕	崇善、富士見、神田、城島 岡崎、吉沢、金目、八幡 真土、松が丘、みずほ、大原	
小学校校庭整備工事	松が丘	
中学校トイレ修繕	春日野	
中学校大規模改修工事	太洋、神明	
中学校校舎屋上防水改修工事	山城	

### 第3章 学校教育

教育総務課、学校給食課、学務課、教職員課、

教育指導課、教育研究所、子ども教育相談センター

#### 第1節 学校現況

市立学校の数は、小学校29校、中学校16校、幼稚園2園となっている。

##### 1 市立学校在籍者数

令和5. 5. 1現在

校種	学校名	学級数		児童・生徒・園児数			教職員数		
		普通	特別支援	普通	特別支援	計	県費	市費	計
小 学 校	崇善	21	6	646	32	678	53	10	63
	港	18	3	550	16	566	30	2	32
	松原	13	4	352	21	373	24	2	26
	富士見	22	3	677	24	701	36	10	46
	花水	31	4	1,002	24	1,026	49	12	61
	旭	16	2	463	11	474	29	2	31
	大野	19	4	574	25	599	34	2	36
	中原	13	7	404	29	433	30	2	32
	豊田	10	3	230	6	236	22	2	24
	神田	13	5	377	26	403	29	2	31
	城島	7	2	150	10	160	14	2	16
	岡崎	14	3	409	17	426	25	2	27
	金田	15	3	442	21	463	28	2	30
	土屋	6	2	78	6	84	13	2	15
	吉沢	11	2	257	6	263	19	2	21
	金目	12	5	353	23	376	24	2	26
	横内	12	5	293	26	319	29	2	31
	八幡	12	2	355	15	370	22	2	24
	南原	9	3	202	4	206	17	2	19
	真土	19	4	541	28	569	34	2	36
	松が丘	11	4	253	18	271	23	2	25
	相模	9	2	233	11	244	19	2	21
	なでしこ	12	3	324	14	338	22	2	24
	勝原	12	3	346	16	362	27	3	30
	松延	14	4	404	13	417	27	2	29
	みずほ	26	5	782	28	810	43	2	45
	山下	16	3	448	18	466	28	3	31
	大原	6	2	161	9	170	15	2	17
	金目分校	0	3	0	17	17	7	0	7
	計	399	101	11,306	514	11,820	772	84	856
					男	6,026	293	34	327
					女	5,794	479	50	529

校種	学校名	学級数		児童・生徒・園児数			教職員数		
		普通	特別支援	普通	特別支援	計	県費	市費	計
中学校	江陽	16	5	583	21	604	42	2	44
	太洋	9	3	297	11	308	25	2	27
	春日野	9	3	329	11	340	26	2	28
	浜岳	18	3	654	12	666	39	2	41
	大野	16	5	549	26	575	40	2	42
	神田	11	2	364	7	371	28	2	30
	土沢	6	2	141	2	143	19	2	21
	金旭	17	3	591	13	604	37	2	39
	中原	12	3	420	16	436	29	2	31
	大住	9	3	295	17	312	27	2	29
	山城	13	5	412	26	438	33	2	35
	神明	12	3	401	14	415	30	2	32
	金目	12	5	386	27	413	32	2	34
	横内	6	2	171	8	179	21	2	23
	旭陵	10	2	310	9	319	27	2	29
金目分校	0	2	0	11	11	12	0	12	
計		176	51	5,903	231	6134	467	30	497
					男	3,082	255	15	270
					女	3,052	212	15	227
幼稚園	ひばり	2		25		25		6	6
	土屋	2		16		16		6	6
	計	4		41		41		12	12
					男	23		3	3
					女	18		9	9
小・中学校、幼稚園合計						17,995	1,239	126	1,365
					男	9,131	548	52	600
					女	8,864	691	74	765

## 2 市立中学校卒業者の進路状況

(単位 人)

進学者数												専修学校等	就職者数	その他の	卒業者総数	
全日制課程						定時制課程	通信制課程	高等学校別科	高等専門学校	特別支援学校	高等部					合計
県内公立	県内私立	県外公立	県外私立	計												
普通	専門・総合															
1,014	366	475	5	52	1,912	24	86	0	3	47	2,072	0	5	14	2,091	



## 第2節 就学援助

就学援助制度は、経済的理由により就学が困難と認められる市立小・中学校在学児童生徒、次年度に市立小学校に就学予定の児童及び市内に在住で神奈川県立中等教育学校（前期課程）に在学する生徒の保護者に対して、就学に必要な経費を援助することにより義務教育が円滑に受けられることを目的としている。

援助対象は、生活保護世帯（要保護児童生徒）と、生活保護世帯に準ずる程度に困窮していて収入が基準以下の世帯（準要保護児童生徒）である。令和4年度の援助対象児童生徒数は、1,946人（要保護児童生徒117人、準要保護児童生徒1,829人）であった。また、特別支援教育就学奨励費は市立の小・中学校に在学する学校教育法施行令第22条の3に規定する障害の程度に該当する児童生徒の保護者及び特別支援学級に在学する児童生徒の保護者に対して、経済的負担を軽減するため、その負担能力の程度に応じ、必要な経費の一部を援助することにより、特別支援教育の普及奨励を図ることを目的としている。令和4年度の補助対象児童生徒数は、524人であった。

令和4年度の援助内容は、次表のとおりである。

区 分	支 給 額	受 給 対 象 者
<b>【就学援助費】</b>		
学用品費	小学生 11,630円 中学生 22,730円	準要保護児童生徒
通学用品費	2,270円	準要保護児童生徒
新入学用品費	小学生 51,060円 中学生 60,000円	準要保護児童生徒 (小学校1年生、中学校1年生のうち 入学準備金の支給を受けていない児 童生徒)
校外活動費（日帰り）	小学生 1,600円 中学生 2,310円	準要保護児童生徒
校外活動費（宿泊）	実 費(上限あり)	準要保護児童生徒
修学旅行費	実 費(上限あり)	要保護、準要保護児童生徒
卒業時諸費用代	8,000円	要保護、準要保護児童生徒 (中学校3年生)
入学準備金	小学生 54,060円 中学生 60,000円	準要保護児童 (次年度小学校1年生) (小学校6年生)
給食費	徴収額	準要保護児童生徒
通学費	実 費(上限あり)	準要保護児童生徒
体育実技用具費	実 費(上限あり)	準要保護生徒
医療費	現物給付	要保護、準要保護児童生徒
めがね購入費	現物給付(上限あり)	準要保護児童生徒
一時困窮扶助費	実 費	同上以外の一時的困窮世帯
教科書の給付	現物給付	被災世帯の児童生徒
<b>【特別支援教育就学奨励】</b>		
学用品費等購入費	実費の半額（上限あり）	
新入学児童・生徒学用品費等	実費の半額（上限あり）	
校外活動等参加費	実費の半額（上限あり）	
修学旅行費	実費の半額（上限あり）	

区 分	支 給 額	受 給 対 象 者
交流及び共同学習交通費	実 費	世帯によっては制限あり
給食費	徴収額の半額	
通学費	バス代実費、ガソリン代	世帯によっては制限あり
通級費	バス代実費、ガソリン代	世帯によっては制限あり

### 第3節 高等学校等修学支援金

本市の住民で中学校を卒業又は中等教育学校の前期課程を修了し、高等学校等に進学した者のうち、修学することに経済的な支援が必要な生徒に対して高等学校等修学支援金を支給している。給付額は1人月額7,000円を限度とし、在学する高等学校等の修学期間又は3年間のいずれか短い期間支給する。

### 第4節 幼稚園就園奨励

昭和59年度から心身障がい幼児を保育している市内私立幼稚園に対し、該当幼児1人当たり月額14,880円の補助を行い、心身障がい幼児の就園奨励を図った。

### 第5節 学校保健

学校における保健管理は、昭和33年の学校保健法の制定とともに児童生徒の健康管理の充実が図られてきた。

平成21年度には、上記の法が学校保健安全法に改正され、令和4年度は、これに基づき次の事業を実施した。

#### 1 幼児児童生徒腎臓疾患検査の実施

市立幼稚園・小学校・中学校の幼児児童生徒全員の腎臓疾患を検出するために、尿検査（一次、二次）を17,617人に実施、そのうち60人について、さらに精密検査を実施した。判定委員会の判定結果により、腎臓手帳を発行するとともに、腎臓疾患児童生徒に定期検尿を実施している。

#### 2 児童生徒心臓疾患検査の実施

児童生徒の運動等による突然死等を防ぐため、心電図検査を市立小学校1年生及び市立中学校1年生に実施した。検査人員は3,901人である。その結果、異常が見受けられた児童生徒又は定期健康診断により心臓の疾患及び異常があると思われる児童生徒を対象に、二次検査を実施した。検査人数は229人である。さらに判定委員会の判定結果により管理区分を設け、心臓手帳により健康管理を行っている。

### 3 児童生徒結核健康診断の実施

結核感染者及び発病者の早期発見・早期治療のため、市立小・中学校の児童生徒全員に対し結核健康診断を実施した。問診調査実施人員は18,098人である。健康診断及び問診調査結果により22人にレントゲン検査を実施した。

### 4 歯科衛生士による学校歯科巡回指導の実施

歯科保健指導の徹底を図るため歯科衛生士により、市立小学校28校（5学年）及び市立中学校1校（1、2、3学年）の児童を対象として、「歯科疾患の予防法及び正しい歯ブラシの使用法」等の内容とする歯科巡回指導を実施した。

### 5 市立学校職員健康管理事業の実施

市立学校職員の健康管理については、早期発見・早期治療の指導を基本とし実施した。

(1) 結核健康診断	894人
(2) 定期健康診断Ⅰ（診察、身長、体重、腹囲、視力、聴力、胸部X線検査、血圧、尿、貧血検査、肝機能検査、血中脂質検査、血糖検査、心電図検査）	804人
(3) 定期健康診断Ⅱ（診察、身長、体重、視力、聴力、胸部X線検査、血圧、尿）	109人
(4) 消化器検査（40歳以上の希望者）	101人
(5) 大腸がん検査	744人
(6) 子宮がん検診（希望者）	129人
(7) ストレスチェック	1,147人

※学校職員のうち市費職員はここに含まず、第1編第8章第3節の表「健康診断等受検状況」に含まれる。

## 第6節 学校給食

本市の学校給食は、昭和23年以来、小学校の教育計画の中での重要施策として位置づけ、逐次施設設備と内容の充実を図ってきた。昭和38年には、小学校全校に栄養士を配置し、児童の健康増進と地域社会の食生活の改善に多大な成果をあげてきた。

しかし、その後は各校とも調理場施設設備の老朽化に加え、児童の急激な増加に伴う施設の狭小化が目立つようになったため、これらの対策として共同調理場方式を採用し、学校給食の充実を図ってきた。

現在小学校28校の内、11校分を東部学校給食共同調理場で、10校分を北部学校給食共同調理場で、崇善・港・富士見・花水・勝原・松延・山下の7校は自校において給食を実施している。また、民間のノウハウを活かした業務の効率化のため、平成26年4月から東部北部両学校給食共同調理場の調理業務等の民間委託をし、平成30年4月から勝原小学校、平成31年4月から松延小学校、令和2年4月から港小学校、令和4年4月から山下小学校の調理業務を民間委託した。

令和3年4月から、小学校の学校給食費を公会計化した。これまで各学校ごとに徴収していた学

校給食費を市が保護者から直接徴収することで、小学校教職員の負担軽減を図った。また、この公会計化により食材購入費を予算化することで、安定した給食の実施が可能となった。

## 1 学校給食実施状況

### (1) 完全給食 (小学校)

区分	学校数	1日当たり 給食数合計	給食従業員数			年間給食 実施回数	給食費 月額	摘 要
			栄養士 人	調理員 人	その他 の職員 人			
単独調理 場方式	7校	4,650食	7人	26人	0人	187回	4,300円	勝原小・松延小・ 港小・山下小 民間委託
共同調理 場方式	21	8,396	6	平成26 年度から 民間委託	2	187	4,300	東部11校 北部10校
計	28	13,046	13	26	2	—	—	

### (2) 1人1食当たり年平均提供栄養量 (小学校)

区 分	エネルギー	たんぱく質	脂 質	カルシウム	鉄	ビ タ ミ ン			
						A	B1	B2	C
本市提供量	Kcal 611	% 17.3 (26.4g)	% 30.6 (20.8g)	mg 335	mg 2.6	μgRE 211	mg 0.50	mg 0.52	mg 30
学校給食 実施基準 (8歳~9歳)	650	摂取エネルギー全体の 13% ~20%	摂取エネルギー全体の 20% ~30%	350	3.0	200	0.40	0.40	25

### (3) 牛乳給食 (中学校)

学 校	給食数 (1日当り)	年間平均実施回数	摘 要
15校	3,207食	93回	1回1本 (200ml)

## 第7節 学校安全

児童生徒の通学安全及び学校内における安全を確保することは重要な課題である。令和4年度においても、安全指導と安全施策の充実に努めた。

### 1 通学路の安全対策

各学校の通学路における危険を把握し、学校、PTA、自治会等地域関係者、警察、道路管理者等と通学路の合同点検を実施し、必要な対策を講じた。また、安心して通学できる環境づくりを進めている団体に対して活動費を助成し、通学路の安全確保に努めた。

### 2 安全点検の定期的実施

学校内の安全管理の徹底を図るため、各校ごとに毎学期1回以上全施設設備の点検を実施し、安全の確保と事故の防止に努めた。

### 3 学校災害見舞金

学校管理下の災害については、日本スポーツ振興センターの給付により対応しているが、昭和56年度から本市独自の事業として歯の破折等に対し学校災害見舞金を支給し、学校教育の円滑な運営を図っている。令和4年度の支給状況は次のとおりである。

見舞金の状況	件数(件)	支給額(円)
死亡	0	0
歯の破折	10(12本)	480,000
7日以上入院療養	0	0
1か月以上の自宅療養等	0	0
教育委員会が特に必要と認めたもの	0	0
計	10	480,000

### 4 心肺蘇生法実技講習会

心肺蘇生及び救急法の理論と技術の習得を図るため実技研修を行った。

対象 幼稚園、こども園、小中学校教員

### 5 学校安全担当者会

学校における組織的な安全管理の一層の充実に努めるとともに、教職員の安全意識を高め、児童生徒等が安全で安心して過ごせる学校づくりを推進するため研修を開催した。

#### 第1回

開催日 4月28日

内容 「平塚市立学校における授業中の児童死亡事件について」

対象 幼稚園、こども園、小中学校教員

#### 第2回

開催日 10月14日

内容 講演「子どもたちの命を守るために～ASUKAモデルと学校安全の質の向上」

～」

講 師 さいたま市 元教育長 桐淵 博氏

## 第8節 教育指導

学校教育は、「生きる力」の育成を基本とし、ゆとりとうるおいのある教育環境を整え、社会の変化に主体的に対応できる確かな学力や自ら学ぶ意欲を身に付け、豊かな人間性を持ち、たくましく生きていく力をもつ幼児・児童・生徒の育成を図ることをねらいとしている。

学習指導要領に基づき、創意が生かされた活力のある学校の創造を目指し、家庭・地域との緊密な連携のもとで、生きる力を育む学校づくりに努め、自然や人とのふれあい活動、道徳教育、人権教育、国際教育、情報教育、身近な地域での体験を通じての環境教育等を、学校・家庭・地域が一体となって推進できるよう諸事業を実施した。また、支援教育の視点から、一人一人の教育的ニーズに応じた多様できめ細かな指導を図り、すべての子どもたちが共に学び、共に育つ教育の推進に努めた。さらに、関係教育機関や地域との連携と協力を重視し、ボランティア活動、自然体験活動などの体験的活動の充実に努めた。

### 1 研究並びに研修にかかわる事業

名 称	内 容	対 象	回数
小・中学校教頭研究会	生きる力を育む学校づくりをめざし、学校経営上の課題について主体的に研修を行い、教頭としての識見を高める。	小・中学校教頭	7
小・中学校教務担当者会	学習指導要領に基づく教育課程の編成についての研究及び中学校区の行事調整等の情報交換を行う。	小・中学校教務担当教員	1
幼稚園・こども園園長会	園運営の改善を図るため、園運営上の課題、今日的課題について主体的に研修を行い、園長としての識見を高める。	幼稚園・こども園園長	2
幼稚園・こども園主任・担任研究会	幼児教育の今日的課題について研究を行い、主任としての識見を高める。 幼児が主体的に活動できる保育のあり方を研究し、担任としての資質を高める。	幼稚園・こども園主任 幼稚園・こども園担任	7
授業づくり推進事業	教育の今日的な課題を踏まえた授業づくりを研究し実践する。実践事例を教育委員会がレポートにまとめ、各学校等に配布する。	当該小・中学校	24
児童・生徒指導担当者会	児童・生徒指導上の情報交換・相互研修などにより、学校間や学校と関係機関との協力体制を確立することで、指導体制の強化を図る。	児童・生徒指導担当教員	小 4 中 5

名 称	内 容	対 象	回数
人権教育担当者会	人権を尊重した学校教育を確立するため、女性の人権、子どもの人権、高齢者の人権、障がいのある人の人権、同和問題、在日韓国・朝鮮人の人権、外国籍市民の人権、患者等の人権、刑を終えて出所した人の人権、犯罪被害者等の人権、ホームレスの人権、インターネット等における人権問題、自殺対策、災害発生時における人権、さまざまな人々の人権などの課題について認識を深める。	小・中学校人権教育担当教員	3
道徳教育推進担当者会	各学校における道徳教育の充実を図るため、道徳教育を推進していくための手立てや課題について研修や情報交換を行う。	小・中学校道徳教育推進担当教員	1
食教育推進担当者会	学校の教育活動全体を通じて食育を推進していくための手立てや課題について、情報提供を行う。	小・中学校食教育推進担当教員、栄養教諭、学校栄養職員	1
小学校外国語教育担当者会	小学校における外国人英語指導者(AET)の活用及び外国語教育を円滑に推進していくための打合せ及び研修等を行う。	小学校外国語教育担当教員	2
養護教諭研究会	健康診断の実施、事後処理等についての研究や応急処置、保健指導、危機管理等について研修を行う。	小・中学校養護教諭	11

## 2 その他の事業

### (1) 幼稚園・こども園・小中学校訪問

各園、各小・中学校の要請に応じて行う訪問と、年間計画に基づく訪問を実施し、保育や教科指導等のあり方や実践上の諸課題等について指導助言を行った。

### (2) 外国人英語指導者(AET)学校訪問

幼児・児童・生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語や外国の生活・文化に親しむ態度の育成を図るため、AETが幼稚園・こども園・小学校・中学校を訪問した。

ア 市内全中学校の1～3年生に対し、1学級あたり年間約15時間の訪問を行った。

イ 市内全小学校の1・2年生に対し1学級あたり年間3時間、3・4年生に対し1学級あたり10時間、5・6年生に対し30時間程度の訪問を行った。

ウ 要請のあった幼稚園・こども園3園を訪問した。

### (3) 日本語指導協力者派遣事業

学校の要請に応じ日本語指導協力者を派遣し、日本語指導が必要な外国につながるのある児童・生徒への日本語習得や基本的生活についての指導・相談・支援を行い、日本での学校生活への適応を図った。

### (4) 幼・保・小・中連携の推進事業

幼稚園・こども園・保育所・小学校・中学校の指導の一貫性を図るため、指導のあり方や

指導上の問題点等について研究し、相互に理解を深めるとともに、幼稚園・こども園・保育所・小学校・中学校間で連携・交流を図った。

ア 連携・交流の推進

各学校（園）で新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で適切に連携・交流を行った。

イ 幼・保・小・中連携学習研究会

教育会館にて、提案発表及び研究協議を行った。

(5) 英語教育推進事業

小・中学校における外国語教育の充実のため、小学校外国語教育に関わる講師による研修を実施し、教員の授業の実践力向上を図った。

ア 講師による訪問研修

令和4年6月～令和5年3月 6回 延べ参加者数 138人

(6) 青少年健全育成

少年非行の低年齢化が憂慮される中で、地域社会の人々、健康・こども部青少年課、神奈川県教育委員会等の関係諸機関との連携した事業を行い、青少年健全育成の充実を図った。

ア 小・中学校教頭研究会（児童・生徒指導についての研修）

イ 児童・生徒指導担当者会（いじめ、暴力行為、不登校、学校と警察との相互連携制度、スマートフォンや携帯電話等、情報通信機器の利用におけるトラブルの実態とその対応、児童指導における校内体制づくりについての研修、関係機関を含めての児童・生徒指導上の情報交換）

(7) 生きる力を育む学校づくり推進事業

ア ふれあい教育の推進

学校（園）や地域の特性を踏まえ、学校（園）・家庭・地域との連携・協力を図りながら、地域に開かれた学校づくりをめざし、創意あふれる活動を推進し、自然や人とのふれあいを通して、心豊かな人として生きていく力が身に付くよう、幼児・児童・生徒の育成を図った。

中学生に対して、自己の「生き方」について考える機会とするため、各界で活躍している方を講師として招き、講演会を実施した。

イ 「総合的な学習の時間」の推進

地域や学校、児童・生徒の実態等に応じ、自ら学ぶ力や学び方・考え方を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにするため、「総合的な学習の時間」を推進し、児童・生徒の育成を図った。

ウ 芸術鑑賞の推進

情操教育の一環として、広く優れた音楽・演劇・伝統芸能等の鑑賞学習を行い、感性豊かな生徒の育成を図った。

エ 校外学習の推進

校外での体験学習を推進するため、移動にバスを利用し、学習内容の深化を図った。

オ 各種大会・コンクールへの参加の推進

スポーツの大会やコンクールに参加することを推進し、たくましく生きる力や、思いやり



感動する心の育成を図った。

(8) 中学校部活動地域指導者派遣事業

中学校における部活動育成及び活性化のために、各学校の要請に応じて専門的資質を有する地域指導者を、運動部及び文化部顧問の指導協力者として派遣した。

ア 実施状況 中学校 15 校 地域 1 派遣地域指導者数 延べ 107 人

(9) 学校図書館活用支援事業

司書教諭等を補佐し、学校図書館の機能の充実を図るために配置された学校司書の活用を支援し、学校図書館の活用を推進することにより、子どもたちの学習や読書活動の充実を図った。

連絡協議会、司書教諭打ち合わせ会、学校司書説明会を開催し、各校の取組の情報交換等を行い、学校図書館を活用した学習や読書活動を充実させるための効果的な方法等を共有化した。

(10) サン・サンスタッフ派遣事業

児童・生徒一人一人に応じた指導を充実するため、サン・サンスタッフとして、学校生活全般にわたっての指導・支援・相談に携わる学習支援補助員と、学校図書館の機能の充実を図るために司書等の資格を有する者を学校司書として派遣した。

ア 派遣状況 ・学習支援補助員 小学校 81 人 中学校 29 人  
・学校司書 小学校 28 人 中学校 15 人

(11) 放課後自主学習教室事業

児童の自主的な学習を支援するために、小学校において「放課後自主学習教室」を週に 2 回程度開催し、児童の学習意欲の向上、家庭学習の習慣化を目指した。

ア 実施状況 小学校 6 校

(12) 平塚市いじめ防止基本方針関連事業

小中学校におけるいじめの未然防止等を支援するために、平塚市いじめ防止基本方針の関連組織である「平塚市いじめ問題対策連絡協議会」及び「平塚市いじめ問題対策調査会」を開催した。

(13) 学校運営協議会

学校評議員制度から「学校運営協議会」へ円滑な移行を図るため、市教育委員会と学校運営協議会を設置する学校及び次年度設置予定の学校の管理職が、「教育課程課題検討連絡協議会」において、学校運営協議会における好事例や諸課題を共有し、協議した。

### 3 各種関連行事等

#### (1) 文化的行事

下記の行事を、市立幼稚園・こども園、市立小学校教育研究会、市立中学校教育研究会等が主体的に計画し運営することにより、教育的効果の向上を図った。

ア	中学校演劇発表会	(7月)	オ	中学校美術展	(1月)
イ	平塚市教員美術展「ひびきの会」		カ	中学校英語祭	中止
	隔年開催のためなし		キ	なかよし作品展	(2月)
ウ	中学校音楽会	(10月)			
エ	幼小図工作品展	(11月)			

#### (2) 中体連関係行事

ア	総合体育大会	14種目	参加人数	延べ5,116人
		期日	6月25、26日、7月2、3、9、10、16、31日 8月28日、10月8日	
イ	新人戦	13種目	参加人数	延べ2,110人
		期日	10月8日を中心として実施	

## 第9節 教育会館

本市の学校に勤務する教職員及び教育関係者の研修会・各種研究会等の重要性を認識し、また、教職員の福利厚生の場として、常時使用できるよう昭和55年4月に開館した。

利用状況は次のとおりである。

室別利用状況

区分	利用回数(回)	比率	利用人数(人)	比率
実技研究室	264	22.8	4,827	14.9
小会議室	241	20.8	4,205	13.0
中会議室	287	24.8	6,433	19.8
大会議室	366	31.6	16,963	52.3
計	1,158	100.0%	32,428	100.0%

## 第10節 教育研究所

### 1 事業の重点

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| (1) 調査研究活動の充実   | (2) 研修事業の充実         |
| (3) 教育の情報化の推進   | (4) 教育関係資料の収集と提供の充実 |
| (5) 教育関係諸団体との連携 |                     |

## 2 事業の概要

### (1) 調査研究活動の充実

#### ア 調査研究部会

<個人・グループ研究部会> (1年計画の1年目 研究部員5名)

「子どもが学び合いを通してめあてを達成するための授業づくり」を共通研究テーマとして掲げ、各部員が議論を通じて個人研究テーマを設定し、授業づくりの研究に取り組んだ。

<ICT活用研究部会> (2年計画の2年目 研究部員5名)

GIGA スクール構想推進のため、「子どもの“わかった”を引き出すためのICT活用」をテーマに、ICT機器の効果的な活用等について調査・研究を行った。市内小中学校に配備されている児童生徒1人1台のタブレット端末を活用した研究授業を実施し、成果や課題をまとめた。

<教育調査研究部会> (2年計画の1年目 研究部員6名)

児童生徒の生活・意識や行動に関する調査・研究を行うための研究部会を立ち上げ、調査項目等の検討を行った。今後は、実際にアンケート調査を実施するとともに、結果分析や考察等を行っていく予定である。

#### イ 小中学校・幼稚園研究推進事業

##### (ア) 特別研究委託事業

市内小・中学校のうち、8校の特別研究委託校が平塚の教育の実態と照らし合わせながら、生きる力を育む学校づくりに向けた今日的教育課題に対して実践的な研究に取り組んだ。

##### (イ) 学校研究委託事業

教職員の指導力の向上のため、市内幼・こ・小・中のうち1園28校で教育課題の改善や生きる力を育む学校づくりをめざした研究に取り組んだ。

### (2) 研修事業の充実

#### ア 研究教室 (幼・こ・保・小・中の教職員対象)

今日的な教育諸課題の解決に向けた具体的な教育実践等の研修の機会を提供するため、幼・こ・保・小・中連携教育講演会を含む研究教室を9回実施した。

#### イ ICT活用研修会

市内小・中の教職員を対象に、校務の情報化とICTの活用に関する研修を実施した。

#### ウ 情報教育担当者研修会

各学校における情報教育の推進を図るため、小・中学校情報教育担当者を対象に、情報機器や情報モラルに関する研修を実施した。

#### エ 校務支援システム研修会

市内小・中の教職員を対象に、校務支援システムの操作及び設定について研修を実施した。

#### オ 平塚市教育講演会

市内の幼・こ・保・小・中の全教職員を対象に、工藤勇一氏を講師に迎え「社会の変化と学校のあるべき姿ー学校改革のプロセサー」という演題で講演会を実施した。

#### カ ワンポイント研修会

日常の教育活動にすぐに生かせるような研修会を5回実施した。

キ 学校研究推進担当者研修会

幼・こ・小・中の研究推進担当者を対象に担当者としての役割や研究の進め方等、学校研究の推進を支援する実践的な研修を実施した。

ク 新採用教員研修会

児童・生徒・保護者に信頼される教員としての指導力を身につけるため、小中学校新採用教員を対象に基礎的、基本的研修を実施した。

(3) 教育の情報化の推進

GIGA スクール構想に伴い、次のことについて市内小中学校で行った。

ア 教育用ネットワークの保守及び管理

イ タブレット端末の保守及び管理

ウ 充電保管庫の保守及び管理

エ 大型モニタの保守及び管理

オ 教育用プリンタの保守及び管理

(4) 教育関係資料の収集と提供の充実

ア 図書館事業

購入本 97 冊

イ 刊行物

(ア) 定期刊行物

・機関誌「平塚教育」第 250 号

・研究所だより「そよかぜ」全 5 号

(その他の刊行物)

・平塚市教育研究所要覧

・平塚市教育講演会リーフレット

・平塚市教育研究所事業計画

・小学校 3・4 年社会科副読本「わたしたちの平塚」

(5) 教育関係諸団体との連携

教育関係諸団体との連携をとり、研究活動の推進を図った。

## 第 11 節 子ども教育相談センター

心や身体に悩みや課題を抱えている児童・生徒や特別な配慮を要する児童・生徒及びその保護者に対して、各専門機関や学校と連携しながら、体系的な相談、援助を行うために平成 5 年 4 月に開設した施設である。

市内在住及び在籍の児童・生徒及びその保護者、学校の教員を対象として、来所相談や電話相談を実施するとともに、研修・研究事業をとおして、学校でのインクルーシブ教育等の推進・充実に努めている。児童・生徒に対しての来所相談では、カウンセリングや箱庭療法、遊戯療法を中心とした相談を行っており、必要に応じて知能検査等を実施するなど、支援体制を整えている。

1 重点事業

- (1) 教育相談体制の充実
- (2) インクルーシブ教育等の推進・充実
- (3) スクールカウンセラー派遣事業の充実
- (4) スクールソーシャルワーカー派遣事業の充実
- (5) 適応指導教室事業の充実
- (6) 特別支援教育の充実

2 事業の概要

(1) 教育相談体制の充実

ア 相談件数及び面接・遊戯療法等実施延人数（来所相談・電話相談） (単位 人)

	未就学	小学校						中学校			高校			他	合計		
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3				
相談件数 (継続を 含む実人 数)	来所	男	0	9	15	19	23	13	22	35	30	26	0	0	0	0	192
	相談	女	1	7	8	13	8	11	19	24	40	18	1	0	0	0	150
	電話相談		3	43	43	35	21	26	40	47	35	15	1	0	0	18	327
	合計		4	375						270			2			18	669
面接・遊 戯療法等 実施延人 数		男	0	0	0	17	12	62	78	88	127	147	0	0	0	0	531
		女	0	0	0	12	16	19	61	24	416	141	0	0	0	0	689
		保護者	0	12	71	154	187	196	290	355	722	380	0	0	0	0	2,367
		担任・他	0	7	32	30	9	22	28	44	26	10	0	0	0	0	208
		合計	0	19	103	213	224	299	457	511	1,291	678	0	0	0	0	3,795

イ 主訴別相談件数 (単位 件)

	不登校	いじめ	学習面の 心配	発達障害の 心配	生活・行動	精神発達 に関する 心配	その他
来所	172	0	47	14	86	0	23
電話	122	5	32	42	55	3	68

ウ 相談実施結果

(単位 件)

区分	終結	継続	中断	計
男	77	113	2	192
女	57	92	1	150
計	134	205	3	342

エ 訪問相談

件数	3件
延回数	130回

オ 就学相談

件数	241件
----	------

カ 巡回相談訪問回数

	小学校	中学校
依頼件数	394件	0件
訪問回数	61回	0回

(2) 支援教育等の推進・充実

ア 研修・研究事業

名 称	内 容	対 象	回数
教育相談・支援教育研修会	教育相談の考え方や態度、また、特別支援教育についての理解を深め、教師としての資質を高め指導力の向上を図る。	幼稚園・こども園教員 小学校・中学校教員	7 うち オンラ イン4
学校訪問事例研究会	学校不応の児童・生徒の事例について、該当の学校全職員で協議し、具体的な方策を探るとともに、専門講師による臨床心理学の視点から、不応児童・生徒の心理や関わり等についての理解を深め、指導力の向上を図る。	小学校 5校 中学校 0校	5
教育相談コーディネーター担当者会	学校における支援教育のあり方について理解を深めるとともに、配慮が必要と思われる児童・生徒への対応や支援について研修する。 また、各方面との連携等について研修を深め、コーディネーターとしての資質の向上を図る。	小学校教員 28人 中学校教員 15人	3
特別支援教育研修会	特別支援教育についての理解を深めるとともに指導上の問題について協議し指導力の向上を図る。 就学相談のあり方について理解を深め、各学校での就学相談を適切に推進する。	特別支援学級担任 校内教育支援担当者 をはじめとして 小学校・中学校教員	4 うち オンラ イン2

イ 相談支援チーム訪問回数

	小学校	中学校
依頼件数	37件	7件
訪問回数	32回	6回

(3) スクールカウンセラー派遣事業の充実

「文部省スクールカウンセラー活用調査研究委託事業」の研究成果を踏まえ、平成10年度から市の事業としてスクールカウンセラー派遣事業を開始した。

初年度は3人を採用し、中学校に派遣した。その後、漸次増員し、平成19年10月からは、市スクールカウンセラー12人を県スクールカウンセラー15人と合わせて、市内の全小中学校に派遣するに至った。

平成22年度から市スクールカウンセラー13人を採用している。

ア 市スクールカウンセラーによる中学校での来室相談・電話相談（延人数）（単位 人）

	来室相談				電話相談			
	生徒	教職員	保護者	その他	生徒	教職員	保護者	その他
	545	813	178	0	26	11	138	0
合計	1,536				175			

イ 市スクールカウンセラーによる小学校での来室相談・電話相談（延人数） （単位 人）

	来室相談				電話相談			
	児童	教職員	保護者	その他	児童	教職員	保護者	その他
	1,893	2,905	1,365	0	48	36	226	0
合計	6,163				310			

(4) スクールソーシャルワーカー派遣事業の充実

課題を抱えた児童・生徒が置かれた「環境への働きかけ」や「関係機関とのネットワークの構築」などによる問題行動等の未然防止や早期解決に向けた対応を図るため、平成25年度より社会福祉に関する専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカー1人（週3日勤務）を採用し、子ども教育相談センターに配置した。平成26年度からは、2人（週3日勤務）を採用、平成29年度からは、さらに1人（週5日勤務）を配置している。

スクールソーシャルワーカー活動状況

件数（実数） （単位 件）	訪問回数（延べ） （単位 回）	ケース会議数 （単位 回）	関係機関との連携（含 電話） （単位 回）
小学校	128	132	1,001
中学校	66	65	629
合計	194	197	1,630

(5) 適応指導教室事業の充実

心因性要因等により、登校しない、あるいは登校したくてもできない状態にある児童・生徒に対し、社会生活（学校生活）に適応できるよう解決策をともに考え、カウンセリングや小集団活動をとおして相談・援助することを目的として、平成5年4月、子ども教育相談センター開設と同時にセンター内に設置された教室である。文部科学省により、不登校児童生徒の社会的自立に資するため、設置を推進されている「教育支援センター」がこれにあたる。

適応指導教室通室者（正式通室・体験通室）延人数 （単位 人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
73	94	135	87	24	152	182	206	202	192	238	199	1,784

(6) 特別支援教育の充実

児童・生徒の能力・特性に応じたきめ細かな教育の一環として特別支援教育を重視し、充実に努めた。これらの対象となる児童・生徒の様態や教育的ニーズにあわせ、本市では、知的障害学級のほかに自閉症・情緒障害学級、肢体不自由学級等、障がいの多様性に対応した学級を設置してきた。さらに、難聴・言語障害学級等の通級指導教室を設置し、通級による教育実践に努めてきた。また、不登校生徒のための相談指導学級も設置した。相談指導学級は平成24年度で閉級となった。

平成23年度には、発達障がいの通級指導教室を開設した。令和元年度には、通級指導教室の設

置を2校とした。このように特別な配慮を要する児童・生徒への多様な教育の場の一層の推進を図り指導の充実に努めている。また、障がいのある幼児・児童・生徒が、安全かつ円滑な学校(園)生活が送れるようにするために介助員を継続して派遣している。平成29年度からは、医療的ケアが必要な児童・生徒への対応のために看護師等の資格を有する介助員を派遣している。令和2年度より看護師等の資格を有する介助員は、医療的ケア学校看護師に名称変更されている。

ア 小・中学校における特別支援学級並びに児童・生徒の現況

(7) 知的障害学級

一人一人の障がいの状態や発達、特性などを把握し、いろいろな生活経験を積み重ね、身近な教材を活用した基礎的な学習を行うため、昭和24年4月浜岳中学校に知的障害学級を開設した。知的障害学級では、小集団の中で、個に応じた生活に役立つ内容を指導するとともに、仲よく助けあうことを味わわせたり、働く態度や知識技能等を身につける指導も行っている。

知的障害学級児童・生徒数

令和4年5月1日現在(単位 人)

小学校名	児童数	学級数	小学校名	児童数	学級数
崇善	9	2	吉沢	1	1
港	10	2	金目	7	1
松原	7	1	横内	10	2
富士見	5	1	八幡	6	1
花水	6	1	南原	2	1
旭	2	1	真土	10	2
大野	3	1	松が丘	4	1
中原	8	1	相模	3	1
豊田	2	1	なでしこ	2	1
神田	5	1	勝原	4	1
城島	6	1	松延	2	1
岡崎	3	1	みずほ	8	1
金田	5	1	山下	4	1
土屋	3	1	大原	3	1
			計	140	32

中学校名	生徒数	学級数	中学校名	生徒数	学級数
江陽	6	1	中原	4	2
太洋	2	1	大住	11	2
春日野	3	1	山城	6	2
浜岳	4	1	神明	7	1
大野	8	1	金目	9	1
神田	3	1	横内	6	1
土沢	1	1	旭陵	5	1
金旭	7	1	計	82	18



(イ) 自閉症・情緒障害学級

自閉症・情緒障害学級では、学校生活に十分適応できない児童・生徒一人一人の状態・発達、特性に応じて対人関係の形成や生活に必要なルールなどに関することを指導している。

平塚市では、昭和48年4月崇善小学校に、自閉症又は自閉的傾向の強い児童を対象とした情緒障害学級を開設した。平成21年度より情緒障害学級は、自閉症・情緒障害学級に名称変更されている。

自閉症・情緒障害学級児童・生徒数

令和4年5月1日現在（単位 人）

小学校名	児童数	学級数	小学校名	児童数	学級数
崇善	20	3	吉沢	4	1
港	6	1	金目	12	2
松原	13	2	横内	12	2
富士見	17	3	八幡	8	1
花水	17	3	真土	17	3
旭	10	2	松が丘	13	2
大野	19	3	相模	8	1
中原	15	2	なでしこ	12	2
豊田	7	1	勝原	14	2
神田	12	2	松延	9	2
城島	3	1	みずほ	18	3
岡崎	9	2	山下	15	2
金田	10	2	大原	7	1
土屋	3	1	五領ヶ台分校	19	3
			計	329	55

中学校名	生徒数	学級数	中学校名	生徒数	学級数
江陽	8	2	中原	10	2
太洋	6	1	大住	5	1
春日野	4	1	山城	12	2
浜岳	6	1	神明	10	2
大野	14	2	金目	11	2
神田	3	1	横内	4	1
土沢	3	1	旭陵	4	1
金旭	7	2	五領ヶ台分校	11	2
			計	118	24

(ウ) 肢体不自由学級

肢体の機能に障がいのある児童・生徒に対し、一人一人の心身の発達と障がいの状態や特性に応じた教育を通して、それぞれの児童・生徒の全面発達を促進するため、昭和60年4月崇善小学校に肢体不自由学級を開設した。肢体不自由学級では、児童・生徒の障がいを考慮し、移動や動きの困難さの改善・克服のための自立活動を中心とした指導とともに日常生活の指導の充実に努めている。

肢体不自由学級児童・生徒数

令和4年5月1日現在 (単位 人)

小学校名	児童数	学級数	中学校名	生徒数	学級数
崇善	4	1	春日野	1	1
港	1	1	大住	1	1
中原	2	1	金目	1	1
岡崎	1	1	計	3	3
金目	2	1			
松延	1	1			
大原	1	1			
計	12	7			

(エ) 病弱・身体虚弱学級

病気等により、継続して医療や生活上の管理が必要な児童・生徒に対し、必要な配慮を行いながら指導を行うため、平成29年4月真土小学校に病弱・身体虚弱学級を開設した。病弱・身体虚弱学級では、健康状態の維持、回復・改善や体力の回復・向上を図るための指導も行っている。

病弱・身体虚弱学級児童・生徒数

令和4年5月1日現在 (単位 人)

小学校名	児童数	学級数	中学校名	生徒数	学級数
中原	1	1	大野	2	1
豊田	1	1	山城	1	1
真土	1	1	計	3	2
松が丘	1	1			
みずほ	1	1			
計	5	5			

(オ) 難聴学級

聴覚障害の程度が軽度の児童・生徒に対し、音や言葉の聞き取りや聞き分けなど、聴覚を活用することに重点を置いた指導や抽象的な言葉の理解や教科に関する指導を行うため、平成18年4月花水小学校に難聴学級を開設した。

難聴学級児童・生徒数

令和4年5月1日現在 (単位 人)

小学校名	児童数	学級数	中学校名	生徒数	学級数
金田	1	1	中原	1	1
金目	1	1	山城	1	1
南原	1	1	金目	1	1
計	3	3	計	3	3

(カ) 弱視学級

拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の認識の面で視覚に障害のある児童に対し、障害の状態や特性に応じ、日常的な支援も含めた教育を実施するため、平成20年4月、松原小学校に弱視学級を開設した。

弱視学級児童・生徒数 令和4年5月1日現在 (単位 人)

小学校名	児童数	学級数
中原	1	1
神田	1	1
計	2	2

(キ) 崇善小学校通級指導教室 (難聴・言語障害・発達障害)

市立小学校において、きこえやことばに軽度の障がいがあるため、特別な教育的支援を必要とする通常の学級に在籍する児童に対して、一部特別な指導を通してその障がいの状態を改善し、社会生活への適応力を向上させることを目的として、昭和43年4月崇善小学校内の敷地に、建築面積332.216㎡の鉄筋コンクリート2階建ての校舎を建設し、崇善小学校「ことばの教室」言語障害学級を開設した。また、昭和45年4月には難聴学級を開設し、言語障害学級と併せてその指導の充実を図ってきた。

さらに、昭和48年4月に、早期発見・早期療育の必要性から、幼児を対象にした「幼児ことばの教室」も開設し指導にあたってきた。昭和60年4月には、江陽中学校難聴学級が、「ことばの教室」の中に併設され、平成2年4月からは、通級指導教室となった。平成15年度に、江陽中学校難聴学級は閉級となった。

平成23年4月に「ことばの教室」が新改築し、発達障がいの児童のための通級指導教室「まなびの教室」を開室した。

平成27年3月、こども家庭課こども発達支援室にて、幼児のことばに関する療育が拡充するにあたり、「幼児ことばの教室」は閉室となった。

崇善小学校通級指導教室 令和4年5月1日現在 (単位 人)

教室名	通級児童数
言語障害	90
難聴	9
発達障害	43

(ク) 勝原小学校通級指導教室 (言語障害・発達障害)

平成31年4月に、市内2校目となる通級指導教室を勝原小学校に新たに開設した。通級対象となる児童が年々増加し、通級による指導のニーズに十分応えられなくなってきたため、勝原小学校の4教室(838.86㎡)を改修・整備し、「ことばの教室」「まなびの教室」を開設した。通級対象は、勝原小学校、山下小学校、旭小学校、土屋小学校、吉沢小学校の5校である。5校以外の小学校の児童は、従来どおり崇善小学校への通級となる。難聴に対する指導は、崇善小学校通級指導教室にて行う。

なお、令和4年度からは、松延小学校を加え、通級対象を6校とすることとした。

勝原小学校通級指導教室 令和4年5月1日現在（単位 人）

教室名	通級児童数
言語障害	25
発達障害	21

#### イ 平塚市教育支援委員会

特別支援学級への入級、通級指導教室への通室及び県立特別支援学校に入学する児童・生徒の適正な就学相談・指導に関する審査や判定を行うため、5回の平塚市教育支援委員会を開催した。教育支援委員会の委員の構成は次のとおりである。

小児科医・精神科医（3人）・耳鼻咽喉科医・眼科医・整形外科医・小学校校長（2人）・中学校校長・小学校教頭・通級指導教室担当（2人）・特別支援学級担任（3人）・通常学級担任・養護教諭・幼稚園園長・保育園園長・県立特別支援学校教諭（2人）・中教育事務所指導主事・平塚児童相談所児童心理司 以上24人

就学相談・指導に係わる実際の審査・判定は次のとおり実施された。

##### 第1回平塚市教育支援委員会（5月17日）

- ・委嘱状の交付
- ・平塚市教育支援委員会委員長、副委員長選出
- ・平塚市特別支援教育の現状報告
- ・通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）関係の就学指導審査及び判定

##### 第2回平塚市教育支援委員会（9月8日）

- ・令和5年度新入学児童の審査及び判定
- ・各学校から依頼のあった児童・生徒の審査及び判定
- ・通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）関係の就学指導審査及び判定

##### 第3回平塚市教育支援委員会（10月13日）

- ・令和5年度新入学児童の審査及び判定
- ・各学校及び特別支援学校から依頼のあった児童の審査及び判定

##### 第4回平塚市教育支援委員会（11月17日）

- ・令和5年度新入学児童の審査及び判定
- ・各学校から依頼のあった児童の審査及び判定

##### 第5回平塚市教育支援委員会（1月19日）

- ・令和5年度新入学児童の審査及び判定
- ・各学校から依頼のあった児童・生徒の審査及び判定
- ・通級指導教室（ことばの教室・まなびの教室）関係の就学指導審査及び判定

以上の審査・判定の結果は次のとおりである。

平塚市教育支援委員会審査結果

(単位 人)

区分 対象	通常の学級及びまなびの教室	特別支援学級						特別支援学校					その他
		知的障害学級	自閉症・情緒障害学級	肢体不自由学級	病弱・身体虚弱学級	弱視学級	難聴学級	視覚障害教育部門	聴覚障害教育部門	知的障害教育部門	肢体不自由教育部門	聴覚障害教育部門通級	
新入学	65	6	18	28	3					3	5	2	
在籍児童生徒	通常の学級	82	30	48	1	1	1						1
	知的障害学級	3	2		1								
	自閉症・情緒障害学級	2	2										
	肢体不自由学級												
	病弱・身体虚弱学級	1		1									
	弱視学級												
	難聴学級												
	特別支援学校関係	3						1			2		
合計	156	6	53	76	5	1	1	1		3	7	2	1

ことばの教室 教育相談審査と結果

区分 対象		審査数	通級が必要	通級の必要なし	他機関紹介	その他
児童	言語障害	47	43	4	0	0
	難聴	0	0	0	0	0
合計		47	43	4	0	0

まなびの教室 教育相談審査と結果

区分 対象	審査数	通級が必要	通級の必要なし	他機関紹介	通級の対象ではない
1年～5年児童	20	19	1	0	0

## 第4章 社会教育

社会教育課、中央公民館、スポーツ課、中央図書館、博物館、美術館

### 第1節 社会教育

多様化するライフスタイルや市民ニーズを捉え、市民がゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に向け、文化芸術活動の振興と普及を図っている。また、子どもたちが地域社会への主体的参加を通し、生きる力を育み健やかに成長するための環境づくりを進めている。

#### 1 平塚市社会教育委員の活動

社会教育委員は、社会教育法第15条及び平塚市社会教育委員に関する条例に基づき設置している。令和4年度は定例会議を4回開催し、「子どもの地域参加・参画」をテーマに協議した。

#### 2 芸術文化活動の振興と奨励

市民一人一人の心にうるおいを与え創造性を育むとともに、より豊かな人生を過ごすため、芸術文化の普及と高揚を図り、市民の創作・発表活動を支援奨励した。

##### (1) 文化祭の開催

第70回平塚市文化祭は、平塚市中央公民館、平塚市美術館及びひらしん平塚文化芸術ホール等において10月3日（月）から11月20日（日）まで開催した。写真、絵画・彫刻、書道の各部門の公募展の応募総数は、写真157点（86人）、絵画・彫刻85点（67人）、書道40点（28人）で入賞作品38点を表彰した。また、文芸部門の応募総数は、俳句74点（38人）、短歌78点（41人）、川柳98点（37人）、子ども家族川柳274組で、俳句、短歌、川柳でそれぞれ10作品を入選とし、子ども家族川柳では高学年の部と低学年の部でそれぞれ金銀銅の三賞に加えて24点の優秀賞を表彰し、表彰式及び入選作品展を開催した。舞台発表では、10団体のうち1団体が公演を中止し、1団体が無観客での公演を実施した。

##### (2) ひらつか市展の開催

第45回ひらつか市展（書道、絵画・彫刻、写真の3部門の公募展）を美術館において、3月5日（日）から3月19日（日）まで開催した。応募総数は、書道23点（19人）、絵画・彫刻59点（54人）、写真221点（123人）で入賞作品38点を表彰した。

##### (3) 芸術文化子ども体験事業

子どもたちが芸術文化に触れ、関心や理解を深め、豊かな人間性を育む機会を増やすため、平塚市文化連盟、前鳥座の協力を得て、地域団体や公民館、学校へ講師派遣し、華道、茶道、琴、人形芝居等の教室を実施している。令和4年度は、団体、公民館、小学校で16教室実施した。

#### 3 地域教育力ネットワーク推進事業

各中学校区に設置している地域教育力ネットワーク協議会では、子どもたちの主体的参加により、世代間の交流、生活体験、自然体験を通して、「生きる力」を育むために、防災キャンプ、カルタ大会など、各地区で独自の事業を実施しているが、令和4年度は15地区のうち12地区で特色ある事業を実施することができた。また、全地区共通事業として、見守りパトロール及びこど

もサポート看板の設置・管理を実施し、地域で子どもたちを見守る活動が進められた。

#### 4 放課後等子どもの居場所づくり推進事業

放課後や土曜日等に、地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、子どもたちが学習や文化活動、地域住民との交流活動などを継続的に体験できる取組を推進した。

#### 5 各種団体の育成

平塚市PTA連絡協議会、平塚市文化連盟等の各種社会教育関係団体の広報事業及び研修会等の事業に対して支援を行っている。

## 第2節 文化財の保護とふるさと歴史

文化財保護法及び平塚市文化財保護条例などの関係法令等に基づき、市内の遺跡の発掘調査や有形・無形の文化財の保存・活用、さらに市民への周知・啓発などを行っている。

### 1 文化財保護

#### (1) 市内の指定文化財と登録文化財

現在、市内には国指定が3件、県指定が8件、市指定が48件の計59件の指定重要文化財と、5件の国登録有形文化財がある。このうち市指定重要文化財に関しては、有形文化財4件の管理団体及び無形文化財3件の保持団体を支援するなど、保存管理の充実に努めている。

#### (2) 伝統芸能の保存と継承

市内に伝わる民俗芸能の保存と継承及び発表機会の提供のため、11月20日(日)に「第46回ひらつか民俗芸能まつり」を中央公民館で開催した(来場者190人)。また、人形浄瑠璃芝居の演技指導者を指導員として委嘱し、指導を行うとともに、人形浄瑠璃芝居伝承グループである前鳥座及び湘南座に対し補助金を交付し、人形浄瑠璃芝居伝承者の育成を図った。

#### (3) 文化財愛護意識の普及

文化財に対する愛護意識の普及啓発を目的とし、市内に遺る各種文化財が広く市民に親しまれるよう、次の事業を実施している。

- ・ 神田公民館、旭南公民館等での市内の遺跡出土品の展示。
- ・ 平塚市文化財写生作品展  
7月1日(金)～29日(金) 作品募集(応募作品32点)  
8月13日(土)～24日(水) 作品展示(旧横浜ゴム平塚製造所記念館『八幡山の洋館』)  
8月23日(火)～9月4日(日) 作品展示(JR平塚駅みどりの窓口内)
- ・ 勾玉づくり教室 全4回開催。参加者76名。
- ・ 第10回平塚市遺跡調査・研究発表会 誌上発表にて実施。3月31日発行。

#### (4) 調査研究活動

地域に根ざした伝統的な文化遺産を後世に末永く伝えるため、指定文化財の候補などの調査を行った。

(5) 埋蔵文化財の保護

埋蔵文化財の保存や開発事業との調整を図るため、以下の調査及び整理事業を行った。

- ・ 開発事業に伴う試掘確認調査 85 件
- ・ 開発事業に伴う緊急発掘調査 2 件
- ・ 開発事業に伴う緊急発掘調査の整理事業 8 件
- ・ 報告書刊行 2 件

また、平塚市教育委員会以外が実施した市内の発掘調査及び整理事業について、適正な記録作業が進められるよう指導、助言を行った。

(6) 歴史的建造物保存・活用事業

移築復原した国登録有形文化財である旧横浜ゴム平塚製造所記念館（八幡山の洋館）を広く市民に周知し、保存と活用に理解を深められるよう、春と秋に「ひらつか音楽のおくりもの」、12月に「クリスマスフェスタ」を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策として、1月31日まで見学と会議室の利用人数を制限した。

令和4年度利用実績は、開館日数 308 日、利用件数 1,120 件（第1会議室 714 件、第2会議室 406 件）、入館者数 18,509 人（見学者 5,863 人、会議室利用者 12,646 人）であった。

2 ふるさと歴史

平成13年度から、郷土の歴史を再評価・再発信することにより、ふるさとへの誇りと愛着を育むことを目的とした事業を展開している。

(1) 地域の歴史再発見事業

地域の歴史、文化、伝統を再評価し、ふるさとへの愛着と誇りを育むとともに、将来のまちづくりを模索していくことを目的とした事業である。地域の歴史等を掘り起こし再発見する団体の支援を行った。

(2) 歴史的文化遺産整備事業

身近な歴史遺産に説明板等を整備する事業を平成12年度から実施している。平成12年度からの合計設置基数は109基（説明板54、案内板2、標柱6、道標47）となっている。

(3) 村井弦斎まつり

小説『食道楽』などで知られる作家で、明治から昭和にかけて平塚に住んだ村井弦斎の遺徳を偲ぶとともに、その業績を市内外に発信・定着させ、あわせてまちおこしの一環とすることを目的に実施している。

第21回村井弦斎まつりは、9月18日（日）開催予定であったが、台風接近により開催を中止した。

(4) エコ・ミュージアム推進事業

金目エコミュージアムによる自然観察会や資料展、地元及び市内に向けた情報発信として『金目エコだより』『自然学級たより』を継続発行し、事業普及を図った。また、金目のガイドツアーや地元小学校への出前授業など、金目地区の自然環境、歴史、文化を活用したイベントを開催した。



### 第3節 公民館

平塚市には中央公民館と、25 の地区公民館が設置されている。地区公民館には、それぞれ地区公民館長1人（非常勤）、主事1人（常勤）等を配置している。公民館は、各館の公民館運営委員との密接な連携のもと、活発に地域の社会教育・生涯学習活動や地域活動の拠点として、さまざまな学習機会を提供するとともに、地域の団体やグループ活動の場として広く利用されている。

#### 1 施策の内容

##### (1) 中央公民館の事業

###### ア 市民大学講座

生涯学習の充実を図り、市民のための継続的・専門的な学習機会の提供を図ることをねらいとした。

《開設講座》

対象はいずれも市内在住在勤在学の18歳以上

全5コース

- a 平塚市民病院の現場から（全4回）
- b 資産運用の第一歩（全4回）
- c 古典文学で味わう〈苦勞〉のかたち（全4回）
- d 復曲能『大磯』を学ぶ（全5回）
- e 日本文学講座～耳で読む文学～（全4回）

###### イ 市民アカデミー

芸術、文化等に関する知識、技能を習得することにより、市民の豊かな生活の充実をめざすことをねらいとした。

《開設講座》

全5コース

- a お菓子の袋 de リメイクバッグ&ポーチ作り（全1回）  
対象 3歳以上のお子様と保護者
- b リトアニア day! リトアニアの文化を体験しよう（全4回）  
対象 小学生以上の方（未成年は保護者同伴）
- c 宇宙に夢中!（全5回）  
対象 小学生以上の方（未成年は保護者同伴）
- d 知ってお得! キャッシュレス決済の基礎知識～はじめてのかながわ Pay～（全3回）  
対象 18歳以上の方（高校生除く）
- e スマートフォン知らないところのこと、知っていると得すること（全1回）  
対象 高校生以上の方

###### ウ ちゅうおう FESTA（第30回）

中央公民館を拠点として、学習・練習活動をしている利用団体が、活動の成果を発表する機会とする。また、各利用団体から実行委員会を構成することで、自主的な運営及び団体間の交流を図る。

- ・作品展示 1月28日(土)～29日(日)
- ・芸能発表 1月28日(土)～29日(日)
- ・体験教室 1月28日(土)～29日(日)
- ・模擬店 1月28日(土)～29日(日)

(2) 中央公民館・地区公民館共通の事業

ア 家庭教育講演会

乳幼児、小学生、中学生を持つ親等を対象に、保護者としてのあり方など親自身の学びを深めてもらうとともに、重要である家庭教育を推進するために開催した。

12月8日(木)

子育てで深めよう!家族の絆～苦境に負けない“my sweet home”～

講師：木山 裕策氏

イ 家庭教育学級

普段子どもと接する機会の少ない男性保護者の育児参加のきっかけづくりとして開催する。

ウ 第40回公民館フェスティバル

市内の公民館を利用し、活動しているグループ・団体が一堂に会して、日ごろの学習成果発表の場とする。

- ・作品展示発表 11月11日(金)～13日(日)
- ・芸能発表 11月12日(土)、13日(日)
- ・お茶 11月12日(土)

エ 広報事業

情報の提供や活動のPRを行い、公民館活動への理解を深めてもらうため、館報・公民館だより及びお知らせ等の他、インターネットによる広報活動を行った。(26公民館)

オ ひらつか地域づくり市民大学

市民活動団体との協働や協働推進課・福祉総務課との庁内連携により、地域課題支援のために地域力を高めることを目的に開講した。

- ・基調講座「誰一人取り残さない共生社会の実現に向けて」  
10月23日(日)
- ・実践講座第1回「地域の力で支え合いの仕組みをつくる」  
11月20日(日)
- ・実践講座第2回「地域の人や資源を活かしてまちを磨く」  
12月11日(日)
- ・実践講座第3回「新しい地域づくりの一步を踏み出すために」  
12月25日(日)

(3) 地区公民館の事業

ア 児童・生徒地域参加事業

異なる学年の児童・生徒が集まり、さまざまな創作活動や体験学習などをおして、集団生活や規律について学ぶとともに、地域の人々との交流を深めることをねらいに実施した。

開設事業数 96事業

対 象 小学生、中学生

開設場所 市内の25公民館

イ 家庭教育学級

親として心身ともに健全で豊かな人間性と創造性をもち、主体的に行動することができるたくましい人間像をめざして、子どもを取りまく諸問題などについての研究討議や相互学習を行うことにより、家庭教育や社会生活に役立たせることを目的に実施した。また、親が子どものためにどうあるべきかについて考えるため、地域の幼児を持つ保護者を対象に「親学び」に関する講座を盛り込んだ。

開設学級数 24学級

対象 乳幼児、小学生、中学生などをもつ親、その他家庭教育に関心のある成人

開設場所 崇善公民館ほか

ウ シニア学級

新しい時代に即応した生き方、家庭、社会における高齢者の役割等の学習や趣味、創作、社会活動をとおして、積極的な姿勢で社会変動に対処する能力を養い、健康で明るい生活設計に資することをねらいとして実施した。

開設学級数 25学級

対象 60歳以上の方

開設場所 崇善公民館ほか

エ ブロック共催事業

多様化する学習要求や課題などを踏まえ、地区公民館が連携して地域性を活かした事業や規模を拡大した事業の展開を図ることにより、広く市民参加の場を提供した。

開設事業数 12事業（4ブロック）

対象 幼児から一般

開設場所 富士見公民館ほか

オ セカンドライフ教室

これまで培ってきたさまざまな知識や経験を職業の場以外にも活かす機会を増やすとともに、新たな学習機会を提供し、余暇の活用方法や第二の人生設計を考えるきっかけをつくることを目的に実施した。また、同世代や地域の人との新たな交流を広げ、地域活動へ参加しやすくする環境をつくった。

開設事業数 5事業

対象 定年退職を迎える、あるいは迎えた市民

開設場所 松原公民館ほか

カ 地域をつなぐ連携事業

地域の各種団体等との共催事業や、地域人材を活用した事業に取り組むことにより、地域住民が地域課題について考え、その解決に導いていくような事業を開設する。

開設事業数 150事業

対象 地域内の住民

開設場所 崇善公民館ほか

キ 市民体育レクリエーション地区大会

体育レクリエーション活動をとおして、住民の健康の増進及び地域のコミュニティー活動の助長を目的に開催する。

ク 公民館まつり

地域文化の発展をねらいとして、公民館活動から生まれた創作、学習活動の成果を展示、発表するとともに、地域の住民に広く参加してもらうことにより、公民館への理解、地域コミュニティーの醸成を図る。

2 公民館利用状況

(1) 中央公民館

ア ホール利用内容別件数及び人数

区 分	邦 楽	クラシック	ポピュラー	民 謡	詩 吟	日 舞	民 舞
件 数	1	11	3	0	4	4	1
人 数	145	1,954	1,264	0	1,224	724	112
洋 舞	演 劇	映 画	演 芸	講 習	研 修	式 典	大 会
4	3	2	4	46	4	5	8
1,411	692	310	1,517	8,004	826	1,760	2,117
準備・ リハーサル	講演会	説明会	音 楽 発表会	その他	計		
40	9	2	28	46	225		
1,229	2,014	833	7,522	10,096	43,754		

イ 会議室系統利用状況

区 分	市民ギャラリー	小ホール・会議室等	計
件 数	98	4,256	4,354
人 数	5,002	40,318	45,320

ウ 全館使用件数及び人数

区 分	ホ ー ル	会議室系統	計
件 数	225	4,354	4,579
人 数	43,754	45,320	89,074

## (2) 地区公民館

### ア 利用回数及び利用人数

館名	利用回数	利用者数	館名	利用回数	利用者数
崇善公民館	2,606	27,919	神田公民館	2,644	40,872
須賀公民館	1,576	15,919	横内公民館	1,835	19,088
松原公民館	2,153	21,183	大神公民館	1,523	18,315
富士見公民館	2,197	23,226	岡崎公民館	1,906	17,673
花水公民館	4,744	62,409	豊田公民館	1,018	9,028
なでしこ公民館	2,042	25,429	城島公民館	1,297	12,453
大野公民館	1,871	22,854	金目公民館	2,404	31,597
八幡公民館	1,651	15,637	金田公民館	3,311	44,524
四之宮公民館	1,940	14,917	土屋公民館	1,118	12,317
中原公民館	2,333	19,426	吉沢公民館	1,513	18,397
松が丘公民館	2,100	16,897	旭南公民館	4,319	62,578
大原公民館	1,170	10,617	旭北公民館	3,370	26,980
南原公民館	1,077	8,773			
			計	53,718	599,028

(注) 花水公民館・神田公民館・金目公民館・金田公民館・旭南公民館については、体育館利用数を含む。

## 3 公民館の整備

- (1) 既設公民館の補修、整備の実施。
- (2) 中央公民館の整備について、劣化度等調査業務の実施。
- (3) 四之宮公民館の整備について、実施設計業務を実施。
- (4) 松原公民館の整備について、基本設計業務を実施。
- (5) 金目公民館の外壁等修繕の実施。
- (6) 旭北公民館の旧管理人棟解体及び整備工事を実施。

## 第4節 スポーツ

市民のスポーツへの関心は、余暇活動や健康増進等を目的として年々高まっており、生涯を通じてスポーツをより多くの市民に理解し実践してもらうよう、諸施策を展開している。

### 1 体力の向上とスポーツの活性化

住民のニーズに即応した地域スポーツの推進を図るため、次の事業を実施している。

#### (1) 地域のスポーツ活動

各地区体育振興会において、地域に即応したスポーツ行事（グラウンドゴルフ、パークゴルフ、ニュースポーツ体験会等）を開催し、地区住民のスポーツ活動の促進を図った。

#### (2) 手話ダンスによる健康づくり事業

手話ダンスグループ「HANDSIGN」による公演を実施

開催日：1月12日

会場：みずほ小学校

参加者：140人（2年生）

(3) 障がい者スポーツの普及・促進

第5回ひらつかパラスポーツフェスタ・第7回ひらつかボッチャ競技大会

開催日：10月16日

会場：ひらつかアリーナ

参加者：456人

(4) ニュースポーツの普及・促進

囲碁ボール交流会 2022

開催日：6月18日

会場：ひらつかアリーナ

参加者：115人

(5) 子どもたちへ体力の向上と心身の健全な育成

SOMPO ボールゲームフェスタ 2022in 平塚

開催日：9月3日

会場：ひらつかアリーナ

参加者：206人

(6) 高齢者を中心とする健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚、ふれあいと活力ある長寿社会の形成

ねりんピックかながわ 2022 ひらつか交流大会

開催日：11月12日～14日

会場：平塚総合体育館

交流試合：スポーツウェルネス吹矢・囲碁

参加者：342人、一般来場者 3,450人

## 2 競技者スポーツ活動の充実

優秀な競技者の育成や新たな競技者の発掘、また、有能な指導者の育成を図るため、次の事業を実施している。令和4年度は天候不良のため（3）の事業を中止した。

(1) 第70回市民総合体育大会

開催日：10月30日、11月6日

会場：大神スポーツ広場、平塚球場、平塚競技場、ひらつかアリーナ、平塚総合体育館、大井射撃場、神奈中平塚ボウル、軟式庭球場、馬入サッカー場、桃浜町庭球場、平塚市総合公園テニスコート、平塚エアライフル射撃場、湘南ひらつかパークゴルフ場

参加者：2,832人

(2) 駅伝競走大会

ア 第69回市内地区対抗駅伝競走大会

イ 第62回市内実業団対抗駅伝競走大会

開催日：1月8日

会場：平塚競技場～山城中学校

参加者：地区対抗の部 17 チーム 102 人  
実業団対抗の部 8 チーム 40 人  
合計 25 チーム 142 人

(3) 選手派遣

第 77 回かながわ駅伝競走大会

(4) 選手強化対策

選手の競技力強化を目指すため、平塚市スポーツ協会に強化委員会を設置し、選手及び指導者の育成・強化の推進に取り組んでいる。

(5) 体育功労、スポーツ優秀選手の表彰

ア 体育の普及、振興に貢献した体育関係者に体育功労者表彰を実施している。

イ 全国大会の優勝者（チーム）、国際大会の優勝者・準優勝者（チーム）を表彰するため、スポーツ優秀選手をたたえる集いを実施している。

3 健全な青少年の育成

スポーツを通じて青少年の健全育成を図るため、次の事業を実施している。

(1) 第 59 回平塚市少年野球大会

開催日：7 月 23 日～7 月 31 日

会 場：大神スポーツ広場、平塚球場

参加チーム：ジュニアの部 8 チーム

学童の部 19 チーム

中学生の部 9 チーム

合計 36 チーム

(2) 第 56 回平塚市少年少女水泳大会

開催日：8 月 7 日

会 場：平塚総合体育館 温水プール

参加者：147 人

(3) 第 51 回平塚市少年少女剣道大会

開催日：10 月 2 日

会 場：平塚総合体育館

参加者：164 人

4 スポーツ指導者の研修

スポーツ指導者の育成のため次の事業を実施している。

(1) 平塚市スポーツ推進委員協議会研修会 年 4 回実施（参加者延べ 241 人）

(2) 神奈川県スポーツ推進委員連合会研修会への派遣

(3) 関東スポーツ推進委員研究大会への派遣

（令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

(4) スポーツ指導者講習会

## 5 市民・大学交流事業

スポーツを通じた地域と大学の交流・発展に資するため、次の事業を実施している。

### (1) 平塚市民・大学交流事業スポーツフェスタ

開催日：12月17日

会場：東海大学湘南校舎

ア 中学生陸上競技教室 参加者 215人

イ 中学生バスケットボール教室 参加者 73人

ウ 中学生バレーボール教室 参加者 60人

合計 348人

### (2) 第53回少年少女マラソン大会

開催日：3月4日

会場：平塚競技場、平塚市総合公園園路

参加者：192人

### (3) 小学生サッカー教室

開催日：3月11日

会場：神奈川大学湘南ひらつかキャンパスサッカー場

参加者：76人

## 6 学校体育施設開放事業

身近な学校体育施設をスポーツができる場所として提供し、市民スポーツの普及と発展を図るため、次の事業を実施した。

### (1) 小・中学校の運動場及び体育館等を教育上支障のない範囲において、地域の活動の場として市民の利用に供した。

開放校 小学校28校、中学校15校、年間利用者294,259人

### (2) 小学校プールを夏休み期間中に各校5日間地域の小学生に開放している。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止した。

### (3) 小・中学校の体育館を利用して、一人でも利用できる個人利用の日を設けている。

開放校 みずほ小学校 年19回

参加者 延べ169人

## 7 体育施設と利用状況

区分	3年度		4年度	
	件数	件数	件数	人数
軟式庭球場	3,117	3,117	2,554	19,863
桃浜町庭球場	7,991	7,991	7,829	38,499
王御住運動広場	271	271	231	4,439
夜間照明施設	980	980	880	14,071
大神スポーツ広場	2,498	2,498	2,276	100,732



土沢多目的広場	269	269	260	8,699
土沢野球場	316	316	284	3,973
湘南ひらつかパークゴルフ場				75,043
計	15,442	15,442	14,314	265,319

## 第5節 図書館

平塚市の図書館は、「身近なところに図書館を」を合言葉に、中央図書館、地区図書館（北図書館、西図書館、南図書館）3館と移動図書館「あおぞら号」で図書館サービスを行っている。図書館全体（移動図書館を含む）の蔵書冊数は約75万冊、年間の貸出点数は約125万点、市民1人あたりの貸出点数は約5点である。

また、駅前予約図書受取所のほか、公民館等市内9か所に返却ポストの設置、グループ等への団体貸出や、保育所等を訪問して資料の貸出を行う「出前図書館」の実施など、利用者へのサービスの充実を図っている。

平和事業やこころと命のサポート事業、文化ゾーン内の3館（中央図書館、博物館、美術館）でのコラボレーション事業など、市で取り組んでいる事業について、関係各課と連携を図りながら、PRや啓発及び関係資料の収集・提供に努めている。

### 1 図書館事業統計

#### (1) 図書館事業

区分	映画会		こどもおはなし会		一日図書館員	
	回数	参加者(人)	回数	参加者(人)	回数	参加者(人)
中央館	32	110	32	369	8	57
北館	0	0	25	124	6	31
西館	6	71	22	263	6	34
南館	0	0	20	166	6	31
計	38	181	99	922	26	153

区分	展示会		図書リサイクル	
	回数	参加者(人)		提供(冊)
中央館	55	—	常設	22,879
北館	29	—	コーナーで	3,302
西館	32	—	随時	1,026
南館	36	—	提供	2,569
計	152	—		29,776

事業名	回数	参加者(人)
16ミリ映写機操作技術講習会	0	0
市民向け講座(中央館)	4	112

・ブックスタート

区分	回数	参加組数	参加者数			
			乳児	保護者	その他	計
	回	組	人	人	人	人
中央館	24	374	366	562	99	1,027
北館	6	39	38	45	7	90
西館	6	60	59	63	14	136
南館	6	59	59	66	6	131
きりんの おうち	0	0	0	0	0	0
※個別渡し	69	69	65	77	15	157
計	111	601	587	813	141	1,541

(2) 施設利用状況

区分	ホール	特別研究室	対面朗読室	計
件数	14	3	0	17

(3) 子ども読書活動推進事業

令和2年2月に、平塚市子ども読書活動推進計画（第4次）を策定した。

これまで子どもの読書活動を推進するため、関係各課と連携し、市民と協働しながら、様々な事業を展開している。

その一環として開催している「平塚市子ども読書活動推進プロジェクト」は、令和4年度で16年目となった。

事業名	開催日時	会場	講師	申込者数	来場者数
第1回 読書感想文の 書き方講座 ビブリオバトルに 挑戦しよう (2連続講座)	8月2日 8月9日 午前コース 10:00~12:10 午後コース 13:30~15:40	平塚市 中央図書館 3階ホール	竹之内 禎 (東海大学 准教授) 西田 洋平 (東海大学 講師)	午前コース 25人 午後コース 17人	午前コース 8人 午後コース 8人
第2回 オリジナル絵本を 作ってみよう!	2月25日 10:00~11:30	平塚市 中央図書館 3階ホール	西野 沙織 (イラストレーター、 絵本作家)	63組 147人	9組 21人
第3回 星空の中のおはなし会	3月25日 15:30~16:30	平塚市 博物館 プラネタリウム室	辻本 あかり (絵本の読み聞かせ 協力)	96組 311人	18組 55人

## 2 資料・機材統計

## (1) 資 料

(単位：冊)

館 分類	中央館	北 館	西 館	南 館	移動図書館	総 計
総 記	12,653	1,774	2,815	2,154	302	19,698
哲 学	10,802	2,689	3,728	3,156	687	21,062
歴 史	31,488	6,905	13,178	8,431	1,051	61,053
社会科学	41,671	8,842	10,143	8,844	1,144	70,644
自然科学	21,056	7,640	10,019	10,507	1,815	51,037
工 業	18,448	6,602	6,559	6,613	2,845	41,067
産 業	9,414	4,396	3,174	3,463	516	20,963
芸 術	27,890	7,660	9,253	9,619	3,056	57,478
語 学	6,007	1,433	1,966	2,085	302	11,793
文 学	101,621	36,820	41,963	45,063	16,077	241,544
録音図書	702	272	204	95	35	1,308
大活字図書	2,285	569	953	806	289	4,902
点字図書	391	1	10	5	6	413
郷土資料	15,860	0	0	0	0	15,860
行政資料	24,607	0	0	0	0	24,607
洋 書	1,488	160	455	161	0	2,264
絵 本	21,567	13,372	17,605	18,932	9,282	80,758
デイジー	188	0	0	0	0	188
LLブック	26	10	0	0	29	65
図書その他	50	0	56	26	1	133
図書計	348,214	99,145	122,081	119,960	37,437	726,837
一般雑誌	10,973	1,220	2,339	2,292	897	17,721
児童雑誌	595	19	283	199	82	1,178
雑誌その他	0	0	0	2	0	2
雑誌計	11,568	1,239	2,622	2,493	979	18,901
総 計	359,782	100,384	124,703	122,453	38,416	745,738

## (2) 視聴覚資料・機材保有数

資 料		機 器	
16ミリ映画フィルム	645	16ミリ映写機	15
8ミリ映画フィルム	48	ビデオ・DVDプレーヤー	7
団体用貸出ビデオ	90	ビデオプロジェクター	4
団体用貸出DVD	101	ワイヤレスアンプ一式	2
スライド	120	テレビ	4
CD	17,715	カメラ	2
ビデオテープ	2,315	マイクロリーダープリンター	1
DVD	3,601		
紙芝居	7,750		
マイクロフィルム	4,225		

## 3 利用統計

区分 年度	開館・開設日数						登 録 者 数					計
	中央館	北館	西館	南館	移動図書館	駅前窓口	中央館	北館	西館	南館	移動図書館	
	日	日	日	日	日	日	人	人	人	人	人	人
3	283	296	294	294	274	-	48,649	8,769	13,047	12,206	4,271	86,942
4	292	309	301	306	297	347	47,033	8,361	12,500	11,774	4,183	83,851

区分 年度	貸 出 者 数						計
	中央館	北館	西館	南館	移動図書館	駅前窓口	
	人	人	人	人	人	人	人
3	218,407	47,557	85,136	93,511	7,591	-	452,202
4	203,610	46,627	83,901	84,967	7,503	18,681	445,289

区分 年度	図 書 等 個 人 貸 出 数							計
	中央館	北館	西館	南館	移動図書館	駅前窓口	CD・ビデオ紙芝居等	
	冊	冊	冊	冊	冊	冊	点	点
3	579,476	131,440	245,403	254,103	25,359	-	56,382	1,292,163
4	546,541	129,550	236,961	230,505	23,781	34,011	51,129	1,252,478

区分 年度	リ ク エ ス ト 件 数						計
	中央館	北館	西館	南館	移動図書館	駅前窓口	
	件	件	件	件	件	件	件
3	115,719	31,063	51,676	71,578	5,334	-	275,370
4	103,638	29,611	52,398	58,727	4,654	31,552	280,580

区分	ブース 利用	参考奉仕		相互貸借		図書館団体貸出					
		資料 相 談	複写 サービス	貸出	借用	グループ等		出前図書館		計	
年度	件	件	枚	件	件	件	冊	件	冊	件	冊
3	381	8,689	19,531	5,454	3,558	51	3,769	76	4,691	127	8,460
4	428	2,897	20,939	5,529	3,566	64	4,241	86	4,438	150	8,679

区分	視聴覚団体貸出							
	登録 団体数	16ミリ フィルム	ビデオ テープ ・DVD等	16ミリ 映写機	スクリーン	ビデオプロ ジェクター	外部 スピーカー	
年度	団体	本	本	回	回	回	回	
3	61	28	32	5	9	9	4	
4	56	37	42	13	16	14	7	

## 第6節 博物館

平塚市博物館は、豊かな人間形成の一翼を担うことを目的に、過去・現在・未来にわたる「相模川流域の自然と文化」を展望し、考古・歴史・民俗・生物・地質・天文の各分野の視点を複合させ、地域に密着した展示活動・教育普及活動・調査研究活動などを行っている。これらの活動を展開していくために多くの市民の参画・協力を得ており、全国でも例のないタイプの地域総合博物館として高い評価を受け、よりよい生活をするためにによりよく地域を知る博物館として親しまれている。

### 1 調査研究活動の推進

市民が求める「生きた博物館」として機能するために、考古・歴史・民俗・生物・地質・天文の各分野の調査、研究活動を推進し、資料の収集・分析・整理等を進めた。

分野ごとの主な調査研究は、次のとおりである。

#### (1) 生物

- 神奈川県植物誌調査
- 平塚市周辺地域のキノコ類の調査
- 平塚市域のカタツムリ調査
- 平塚海岸のウミガメ調査

#### (2) 地質

- ボーリングデータの整理
- 湘南地球科学の会での情報収集
- 相模川流域を中心とした
- 相模川流域を中心とした
- 湘南地域第四系地質調査
- 湘南地域化石資料の収集・整理
- 湘南地域の砂鉄の調査

#### (3) 天文

- 太陽活動の調査と資料収集
- OOA 機器の調査
- 天体写真資料の収集
- プラネタリウム機器・投影方法の調査
- 科学教育機能に関する調査研究
- 天文現象の調査と資料収集
- 情報システムの研究
- 流星活動の調査

#### (4) 歴史

- 館蔵古文書類の修復作業
- 新収蔵資料の調査
- 明治初期の治水に関する研究
- 御用留に見る地域社会の研究
- 平塚空襲と戦時生活に関する実態調査

#### (5) 民俗

- 民俗資料の収集と整理
- 市内民俗事例の調査と記録
- 過去の調査記録の整理
- 市内石仏調査
- 市内の年中行事に関する調査研究

#### (6) 考古

- 市内外の遺跡調査
- 五領ヶ台貝塚資料の整理
- 相模国府・国庁の研究
- 実験考古学に関する研究

また、調査研究活動の成果はホームページ及び次の出版物を通して公表した。

- 平塚市博物館研究報告「自然と文化」第46号
- 平塚市博物館年報 第46号
- 銀河No.183、184、185、186
- 特別展ポスター・リーフレット・図録
- あなたと博物館（月刊だより）50巻1号～50巻12号
- 平塚空襲体験証言集「炎の証言」第22号
- 平塚市博物館資料叢書1「相模国海綾郡万田村出縄家文書 公事日記」

## 2 展示と活動の概要

「相模川流域の自然と文化」をメインテーマとする常設展示は、1階は「相模平野と人間」、2階は「地域をさぐる」、3階は「星のひろば」というサブテーマで構成している。

3階には、平塚市では唯一の科学教育施設としてプラネタリウムを設置し、天体運行の学習やさまざまな天体現象を再現して、市民が広大な宇宙を体感し科学的に理解するための投影事業を実施している。

総合博物館の特性を活かし、人文と自然の各領域の視点から、平塚市の自然と文化を知る特別展を3回開催した。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の渦中にあったものの、夏期、秋期、春期の3回の特別展と、学芸員とともに調査・研究・普及に取り組む博物館ワーキンググループの成果発表の場となる「博物館文化祭」を開催した。

夏期特別展「野鳥愛」は、県内でもトップクラスに多くの種類の野鳥が観察される場所として知られているが、残念ながら、現在野鳥は市民にとって必ずしも身近な存在とはいえない。一方で、野鳥への関心は高く、鳥について知りたいという要望は多い。本展では館蔵資料の剥製や野鳥写真家の写真、バードカービング作品をきっかけに、市内に多様な野鳥が生息することを知ってもらうことで、鳥について知ってもらうとともに、平塚の自然への関心を深めることを目的とした。また、子供向けワークシート「とり探し」とを制作、アンケートの感想では、「とり探しとが本当に難しかったです…でも何度も展示を見るきっかけとなったので楽しくまわりました。」などの意見をいただいた。

秋期特別展「星になった民具たち」では、日本各地に伝えられてきた“日本版星座”を、特に

“民具”に注目してその実物を展示し、日本人が星空をどのように捉えてきたのか、を紹介した。同時に、天体にまつわる年中行事や信仰、日本の文化を解説し、日々の生活に星が深く根付いていたことを知ってもらう機会とした。

アンケート結果からは、来館者の半数以上が市外からで、うち6割が県外からとなり、今回の特別展の特徴となっている。要因としては、Twitterでのツイートによるものと思われる。感想においても「星と民具という通常では関係性がないと思われがちなことを星の名前を通して結びつける企画はとても新鮮」といった感想が寄せられた。

春期特別展「ゼロからの湘南地学入門」では、「地学」は理科で学ぶ化学、物理学、生物学といったすべての分野が関わる総合的な分野であるために難しい印象を持たれがちだが、地域の成り立ちや私たちの暮らしとも密接にかかわる分野でもあることから、地学について理解することは、私たちの未来について考える上で極めて重要といえる。本展では、そんな地質学の基礎的な内容（小学校高学年～中学レベル）を、身近な湘南地域で実際にみられる地層、石、地形に焦点を当てながら紹介した。

アンケート結果からは、来館者の6割が市外からの来訪で、「湘南」地域としたタイトルどおりの集客を得られた。

博物館文化祭は、博物館で活動する会員制ワーキンググループが、活動成果の発表を通じて相互の交流を深めるとともに、市民に広くその活動内容を紹介することを目的に開催している。第22回は8グループが参加し、展示や活動発表、実演を実施した。

定期的に展示テーマを替えている「寄贈品コーナー」での企画展では、各分野の「新着資料展」や毎年行っている「平塚空襲」展など9回の展示替えを行った。このうち「みんなで調べよう「平塚のかたつむり」結果報告！」展では、平成31年度から令和3年度の市民参加による分布調査結果を、展示としてまとめ報告した。また、博物館学芸員資格取得のための博物館実習生による制作展示を、寄贈品コーナーで行った。

情報コーナーでは、各特別展のダイジェスト展示「ポスト特別展」のほか、市制90周年記念展示「平塚市制90周年」展は、図書館、美術館との3館コラボ事業の関連展示とした企画とするなど、前年度からの継続を含む4回の展示替えを行った。

なお、令和4年度は「新型コロナウイルス感染症」による休館は行わなかったが、「3密」の回避や「接触」する展示の制限、展示室や各行事の人数制限は継続した。

### 3 博物館事業（教育普及活動）の充実

平塚市博物館は、教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館活動を実践し、特別展示室・講堂・科学教室・プラネタリウム室等を活用して事業を展開するとともに、野外教育活動・広報・出版活動等にも力をいれている。会員制の行事は参加市民にとっては知識・技術獲得の機会であり、博物館にとっては調査研究収集活動に市民の参加をいただく機会となっている。

また、令和4年度は、電子展示システムを更新し、新たにデジタル展示ガイド「ひらばく展示+（プラス）」を導入、試験運用を行いました。各種事業の実施状況については「(5) 主な教育普及活動の開催回数と参加者数」の表のとおりである。

なお、新型コロナウイルス感染症対策による行事などの休止や延期、自由参加行事を申込制に変更したこと、会場の定員を半数以下に設定したことなど、昨年度同様の各種制限を行ったが、

実施回数、参加者数とも増加した。

プラネタリウムの投影でも休演することはなく一般投影を11時、14時の2回、定員は徐々に緩和し令和5年3月から通常定員の70名とした。特別投影は「シアトリカルプラネタリウム」を再開したが「コンサート」は中止した。一般投影は、フリートークプラネタリウムを中心に様々なテーマのオリジナルプログラムを、1回約50分間で解説・投影を行っている。団体投影については、幼児団体投影は5月から、小学校4年生対象の学習投影は9月から、市内の保育園・幼稚園・小学校に限っての利用に応じ、合わせて76回投影を実施した。

(1) 特別展等開催状況

- 夏期特別展「野鳥愛」 7月21日～9月4日(日)
- 秋期特別展「星になった民具たち」 10月22日(土)～  
令和5年1月15日(日)
- 春期特別展「ゼロからの湘南地学入門」 3月18日(土)～(5月14日(日))
- 第22回博物館文化祭 2月4日(土)～2月19日(日)  
—ワーキンググループ活動展示・報告会・実演—

(2) 寄贈品コーナー展示状況

- 「ハレの日の装い」 (令和4年2月26日(土))～4月3日(日)
- 「新着資料展・自然分野」 4月7日(木)～5月8日(日)
- 「新着資料展・歴史・民俗」 5月12日(木)～6月5日(日)
- 「平塚空襲展」 6月21日(火)～7月31日(日)
- 「続・鎌倉武士の足跡をたどる」 8月4日(木)～9月7日(水)
- 「学芸員実習展示」 9月16日(金)～9月28日(水)
- 「ゼロからの湘南地学入門」 10月1日(土)～10月30日(日)
- 「みんなで調べよう「平塚のかたつむり」結果報告！」 11月3日(木・祝)～  
令和5年1月9日(月・祝)
- 「カレンダーが変わる!? 明治改暦150年」 1月13日(金)～2月26日(日)
- 「#竹のある暮らし」 3月2日(木)～(4月2日(日))

(3) 情報コーナー展示状況

- 「星座“誕生”100年」展 (令和4年3月31日(木))～5月11日(水)
- ポスト特別展「掘り起こされ「てい」た平塚」 5月14日(土)～6月5日(日)
- 「平塚市制90周年」展 6月21日(火)～12月11日(日)
- 「生き物から見る生物多様性」(環境保全課) 令和5年1月14日(土)～(5月14日(日))

(4) プラネタリウム投影状況

- 鎌倉武士が見た星空～吾妻鏡に残された天の記録～ (令和4年2月5日(土))～4月3日(日)
- ハッブルからジェイムズ・ウェッブへ  
～宇宙望遠鏡新時代 4月9日(土)～6月5日(日)
- フリートーク・プラネタリウム 6月25日(土)～7月21日(木)
- 夜空でバードウォッチング!?～鳥の星座をめぐる 7月23日(土)～8月28日(日)
- 月がとっても赤いから～迫る皆既月食～ 9月3日(土)～10月30日(日)
- 日本の星を見上げて～星の和名の春夏秋冬～ 11月5日(土)～令和5年1月15日(日)
- 2023年の天文現象 1月21日(土)～2月26日(日)
- 母なる星・太陽 3月4日(土)～(5月7日(日))



## (5) 主な教育普及活動の開催回数と参加者数（空欄は0）

	活動内容	実施種別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
			回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	
1	古文書講読会	会員	回数	4	4	2	4	4	4	4	4	2	4	4	4	44
			人数	50	55	32	52	50	52	51	47	24	49	50	48	560
2	平塚の空襲と戦災を記録する会	会員	回数	1	1	1	5	2	1	2	2	1	1	2	1	20
			人数	3	6	6	12	8	6	8	7	5	5	8	2	76
3	星を見る会	非会員	回数	1				1	1		1				1	5
			人数	25				51	50		57				40	223
4	天体観察会	会員	回数	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
			人数	42	28		24	24	36	30	22	26	31	32	28	323
5	天体観察会 太陽分科会	会員	回数		2		2	1	1	1	1		1	1	1	11
			人数		18		17	11	11	10	9		9	10	8	103
6	天体観察会 太陽分科会初心者	会員	回数	1	1			1		1	1	1	1	1	1	9
			人数	15	13			11		11	11	14	10	11	9	105
7	天体観察会 流星分科会	会員	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
			人数	15	13	12	9	13	11	14	15	26	12	11	14	165
8	天体観察会 天文学分科会	会員	回数	1	1		2	1		1		1		1	1	9
			人数	28	21		39	20		16		13		18	19	174
9	石仏を調べる会	会員	回数	2	2	2	2	1	2	2	2	1	2	1	2	21
			人数	25	26	25	24	11	24	22	17	11	22	11	22	240
10	地球科学野外ゼミ	会員	回数	1	1	1	1		1	1	4	2	1		3	16
			人数	44	39	40	36		38	38	56	38	43		50	422
11	平塚の古代を学ぶ会	会員	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	0	1	12
			人数	10	10	12	7	7	8	6	7	6	11	0	8	92
12	民俗探訪会	会員	回数	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
			人数	24	23	0	22	20	24	21	18	19	19	15	17	222
13	裏打ちの会	会員	回数	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	11
			人数	11	11	10	9	8	9	8	8		9	9	9	101
14	自然教室	非会員	回数	1		1				1					1	4
			人数	10		25				8					11	54
15	地域史研究ゼミ	会員	回数	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1	11
			人数	4	4	4	4	4	4	4	4		2	2	3	39
16	古代生活実験室 験室	会員	回数	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	14
			人数	14	12	13	23	9	11	9	10	11	18	9	6	145
17	プラネタリウム公演 雑貨団	非会員	回数					2								2
			人数					76								76
18	ろばたばなし	非会員	回数		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
			人数		7	3	4	9	16	1	5	17	4	1	6	73
19	験学習 ヘルセウス座流星群の投影機を作ろう	非会員	回数					1								1
			人数					8								8
20	体験学習 流星群の投影機を作ろう	非会員	回数						1							1
			人数						37							37
21	体験学習 偏光万華鏡を作ろう	非会員	回数		4											4
			人数		64											64
22	体験学習 光る星座早見盤を作ろう	非会員	回数						1							1
			人数						18							18
23	体験学習 光る七夕の星図を作ろう	非会員	回数					1								1
			人数					12								12
24	体験学習 望遠鏡を作ろう	非会員	回数					2								2
			人数					14								14
25	星座早見盤を作ろう	非会員	回数	1	1			1								3
			人数	23	21			36								80
26	体験学習 昔の方法で火を起こそう	非会員	回数				1									1
			人数				69									69

	活動内容	実施種別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
27	体験学習 サメの歯化石のレプリカをつくろう	非会員	回数				1	1	1							3	
			人数				28	31	17								76
28	体験学習 とりの手羽先骨格標本を作ろう	非会員	回数				2									2	
			人数				28										28
29	自然観察入門講座 相模川流域ジオツアー	非会員	回数	1							1		1			3	
			人数	21							14		18				53
30	体験学習 お飾りをつくろう	非会員	回数									1				1	
			人数										25				25
31	体験学習 星になった民具をつかおう	非会員	回数										1			1	
			人数											13			13
32	展示解説ボランティアの会	会員	回数	2	1	1	2	1	2	2	1	1	2	2	2	2	19
			人数	26	16	13	32	14	31	27	13	15	30	29	28	28	274
33	祭りばやし研究会	会員	回数	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	21
			人数	13	19	20	19	5	18	19	22	17	24	18	18	18	212
34	バックヤード&プラネ、こどもスペシャル	非会員	回数	1													1
			人数	141													
35	考古学入門講座	非会員	回数							1	1					2	
			人数							34	31						65
36	平塚学入門講座	非会員	回数						2	4						6	
			人数						50	90							140
37	天文学入門講座	非会員	回数		1	1	1				1					4	
			人数		38	32	24			21							115
38	最新天文学講座	非会員	回数	1			1	1								3	
			人数	34			35	36									105
39	東国史跡踏査団	会員	回数	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	10
			人数	11	0	14	19	0	12	14	14	14	14	7	19	13	137
40	平塚郷土史入門講座	非会員	回数										1	1	1	3	
			人数											55	46	44	145
41	石仏めぐり	非会員	回数							1						1	
			人数							12							12
42	キノコの観察会	非会員	回数							1						1	
			人数							19							19
43	聞き書きの会	会員	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
			人数	6	7	5	7	5	6	6	6	6	6	7	6	4	71
44	生き物ズームプロジェクト	会員	回数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
			人数	7	6	6	5	4	5	6	3	6	6	5	4	4	63

#### (6) 平塚市博物館ホームページコンテンツの拡充と SNS 発信

博物館ホームページはコンテンツの拡大・充実を図り、「おうちで楽しむはくぶつかん」を随時更新した。令和2年度末から開始した YouTube 動画「5分でわかる平塚学入門」は、毎週、動画コンテンツを追加し、8月に全79本の公開を完了、また、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にちなみ、平塚にゆかりの人物を毎月1人ずつ取り上げた「鎌倉殿と平塚の七人」、こちらも8月に全8話の公開を完了した。新たに開始した YouTube 動画シリーズとして、天文分野の「だいたい3分でわかる88星座図鑑」を4月から、博物館の収蔵資料を取り上げる「博物館モノ語り」を10月から開始した。博物館公式 YouTube チャンネルの動画の年間視聴数は89,583回、チャンネル登録者数は695人増の1,970名となった。また、博物館日記は更新頻度を充実させ日常の博物館活動を通して、リアルタイムの情報発信に努めた。平塚市公式LINE、博物館公式Twitterは、それぞれの特性に合わせて情報発信の多様化を進めた。

「おうちで楽しむはくぶつかん」プログラム	コンテンツ数
○「あおいちゃんの昔の暮らし調べ」	8
○「ふしぎなミニ博物館」	3
○「写真でみるむかしの平塚」	8
○「いろいろ生き物」	47
○「縄文時代の暮らし／縄文から弥生へ」	7
○「古墳の出現」	3
○「平塚周辺の大地のかたち」	2
○「はくぶつかんたんけん」	1
○「はくぶつかんがつくった本」	—

YouTube プログラム再生リスト	動画数	年間視聴数
○「おうちでプラネタリウム」	3 (0)	9,630回
○「ものづくりエイター」	10 (0)	1,754回
○「5分でわかる平塚学入門」	79 (22)	54,095回
○「鎌倉殿と平塚の七人」	8 (5)	11,928回
○「だいたい3分でわかる88星座図鑑」	26 (26)	6,877回
○「博物館モノ語り」	6 (6)	1,435回
○その他	125 (0)	3,848回

※ ( ) 内は令和4年度中に新たに追加されたコンテンツ数

※ 限定公開動画が含まれているため合計数は一致しない。

#### 4 平塚市博物館協議会

博物館の機能・運営等に関し、広く学識経験者や教育関係者、市民等の意見を反映させ、博物館の充実と発展をはかるため、平塚市博物館協議会を設置している。現在6人の委員が任命されており、令和4年度は3回の会議を開催し、館が抱える課題等について協議した。

#### 5 博物館利用状況

月	区分	入館者数	プラネタリウム	
			観覧者数	投影回数
4		3,752	404	19
5		4,377	814	34
6		2,111	384	14
7		5,250	1,084	37
8		7,106	1,267	35
9		3,535	720	26
10		3,126	663	28
11		3,838	681	29
12		1,462	235	12
1		3,230	732	31
2		3,457	642	23
3		3,175	467	24
計		44,437	8,093	312

※入館者数は、館外及び野外で開催した行事の参加者も含む。

## 第7節 市史編さん

### 1 市史編さん

市史刊行の目的は、本市の過去から現在を再展望し、新たな史観に基づく市民文化創造の一助を担い、市民生活の向上を図ることである。

昭和28年に市史編さん室（郷土研究室）を設置して以来、市史公刊の準備を進めてきたところであるが、昭和57年4月に市制50周年を迎えたのを機に、『平塚市史2 資料編 近世（1）』を初めて市民の前に公刊し、令和4年度は『平塚市史13下 別編 寺社（2）』を刊行した。令和5年3月末までに計13巻15冊を刊行している。

刊行計画では全16冊を予定しており、今後の刊行準備として『年表』の資料調査・整理を進めている。

#### (1) 資料の収集及び整理・保管

資料の収集は、市史の刊行に先行する基礎的かつ最も重要な作業である。収集資料の市史への活用、市民の求めに応じた教育・文化活動への利用等を考える時、必然的に綿密な調査・研究と科学的な実証に裏づけられた収集・整理・保管が要求される。

このため、文献資料・参考図書・各種研究報告書・古文書・写真資料などの収集・整理にあたっては、その歴史的資料としての重要性を十分認識し、作業を進めている。

#### (2) その他

市民の方々からの、郷土研究に関する問い合わせや関係機関からの調査依頼及び資料の貸出し等の申請に対して、市史編さん過程で収集した資料を基にして回答を行った。また、従来刊行した市史等の頒布を行った。

## 第8節 美術館

平塚市美術館は平塚市の文化の振興に寄与し、市民の生涯学習の活発な拠点となる恒久的な機関として、平成3年3月に開館した。

「湘南の美術・光」をメインテーマに、地域の歴史や風土に根ざした個性的で特色のある芸術文化を形成するため、湘南にゆかりのある作品、並びに国内外の優れた近現代美術の収集、調査・研究と展示・教育活動を行っている。また、芸術文化活動の発表の場としての市民アートギャラリー等の貸出などを行っている。

### 1 展覧会の開催

#### (1) 企画展の開催

作品や作家について調査・研究を行い、3回の企画展を開催した。

ア 市制90周年記念 リアル（写真）のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと

会 期 4月9日（土）～6月5日（日）

観覧者数 9,249人

開催日数 50日

イ 市制90周年記念 工藤麻紀子展 花が咲いて存在に気が付くみたいな

会 期 7月9日（土）～9月11日（日）

観覧者数 7,248 人

開催日数 56 日

ウ 市制 90 周年記念展 わたしたちの絵 時代の自画像

会 期 10 月 1 日 (土) ~11 月 27 日 (日)

観覧者数 4,050 人

開催日数 50 日

## 2 作品の収集・保存及び活用

### (1) 美術品の収集

寄贈作品 12 点、寄託作品 17 点の収集を行った。

#### 寄贈作品

NO	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	技法材料
1	大木雄二	羅生門：パジル	2021 年	162.0×324.0	ミクストメディア ・キャンバス
2	大木雄二	羅生門：紫	2021 年	130.0×390.0	ミクストメディア ・キャンバス
3	大沢昌助	ネック	1977 年	97.0×130.3	油彩・キャンバス
4	河野通勢	桃源郷に遊ぶ人々	1941-42 年頃	160.0×156.0	墨、彩色・紙
5	五島三子男	Dialogue/sea grassIII	2015 年	100.5×116.5	オフセット
6	五島三子男	Grass wording.III-3	2017 年	107.5×107.5	オフセット
7	五島三子男	Grass wording.IV-10	2019 年	107.5×107.5	オフセット
8	五島三子男	Grass wording. I -3	2021 年	107.5×107.5	オフセット
9	星崎孝之助	Dame de Firmament(笛ふく天女)	1960 年代か	80.8×60.0	油彩・キャンバス
10	宮川慶子	聞こえる	2015 年	H39.5	石塑粘土、油彩
11	森光子	天空の五指	2016 年	15.0×15.0	セリグラフ・紙
12	山本丘人	海道の径	1984 年	145.4×97.0	彩色・紙

寄託作品

NO	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	技法材料
1	井上三綱	箱根の秋	1936年	28.5×50.0	油彩・キャンバス
2	猪熊佳子	木霊一森へー	1998年	182.0×240.0	彩色、綿布
3	岡村桂三郎	地神龍 11-1	2011年	230×550×8.6	岩絵具、板
4	坂口紀良	イドラ島の小径	2010年頃	116.7×80.3	油彩・キャンバス
5	島田章三	ホテルにて	1981年	148.5×112.0	油彩・キャンバス
6	関口俊吾	二人の女	1941年	64.0×51.9	油彩・キャンバス
7	高垣勝康	incarnation	2016年	43.0×43.0×73.0	楠に彩色、胡粉、鉛筆、漆
8	高垣勝康	incarnation(少女像)	不詳	18.0×18.0×35.0	楠に彩色、胡粉、鉛筆、漆
9	高垣勝康	incarnation	不詳	79.0×54.0	鉛筆、厚紙
10	長沢明	トラとワナⅢ	2003年	201.0×150.0	彩色、寒冷紗、パネル
11	三岸節子	静物	1940年頃	57.2×49.8	水彩・紙
12	宮いつき	双子座	1999年	162.0×130.0	彩色、紙
13	宮廻正明	無伴奏	2002年	259.0×181.8	彩色、紙
14	山口蓬春	梅花紅葉	1934年	各 163.7×391.0	紙本金地彩色
15	山本雄教	757円の男	2021年	90.0×90.0	フロッタージュ
16	山本雄教	One coin people	2017年	172.0×360.0	フロッタージュ
17	吉井淳二	強羅にて	1941年	37.5×45.3	油彩・板

(2) 美術品の修復・保存

ホセ・デ・リベラ作品の駆動部分の修繕、大沢昌助作品1点、松本節作品1点の修復、定期メンテナンス及び防腐処理を8点（屋外設置作品）行った。

その他、収蔵庫における虫害モニタリング（生物被害調査）を行い、良好な保存環境であることを確認した。

(3) 特集展の開催

収集や修復を行った所蔵作品の中からテーマを設けて紹介できる作品、または所蔵作品以外からも特に紹介したい作家の作品を選び、4回の特集展を開催した。

ア けずる絵、ひっかく絵展

会 期 4月9日（土）～6月12日（日）

観覧者数 9,325人

開催日数 56日

イ 気になる！大好き！これなあに？こどもたちのセレクション

会 期 7月2日（土）～9月19日（月・祝）

観覧者数 8,411人

開催日数 69日

ウ 現代日本画 コレクションのあゆみ

会 期 10月29日（土）～2月19日（日）

観覧者数 6,551人

開催日数 91日

エ	ロビー展	富岡奈津江 陶のいきもの展
会 期	12月3日(土)～令和5年4月2日(日)	
観覧者数	9,794人	
開催日数	99日	

### 3 教育普及活動の充実

開催中の展覧会に関連した講演会やワークショップ、学校を対象としたスクールプログラム等、さまざまな教育普及活動を実施した。

#### (1) 講演会

草薙奈津子講演会「思い出すこと 2004-2023年」

日 時 1月9日(月・祝) 14時～15時

講 師 草薙奈津子特別館長

参加人数 78名(事前申込制)

#### (2) アーティストトーク・ギャラリートーク

作家本人や担当学芸員によるアーティストトークやギャラリートークを、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら行った。

#### (3) 実習・職場体験・団体研修等

##### ア 博物館実習

当館の活動に携わり体験的に学芸員の職務の理解に資することを目的として、美術を専攻する博物館学実習生を9大学から11人受け入れ、6月から12月まで実習を実施した。

##### イ 職場体験

美術館の仕事を実際に体験することで社会性・勤労観やマナーを身に付け、将来の職業選択につながるよう、市内中学校5校20人を対象に美術館の概要講義や業務体験を実施した。

また、市内高校2校2人のインターンシップを実施した。

#### (4) 教育プログラム

##### ア 一般・子ども向けプログラム

アトリエでのワークショップを中心に、バックヤードツアーや展示室での鑑賞講座等、乳幼児から一般まで幅広い年齢層の方を対象として、教育プログラムを24回実施し、328人の参加があった。

##### イ スクールプログラム

美術館と学校との連携を進め、美術教育や相互交流の場となるよう、学校教員の研修会を含め、学校の先生や生徒を対象としたスクールプログラムを10回実施し、97人の参加があった。

##### ウ 対話による美術鑑賞事業

市内小学生を対象とした対話による美術鑑賞講座を8回実施し、613人の参加があった。

#### (5) 美術館協議会

美術館の機能・運営等について、広く学識経験者や教育関係者、市民等の意見を反映させ、美術館活動の充実と発展を図るため、8人の委員で構成する平塚市美術館協議会を2回開催

した。

(6) 美術品選定評価委員会

寄贈や寄託など美術品の取得にあたり、円滑かつ適正な美術品の選定・評価を行うため、専門知識を有する学識経験者5人の委員で構成する平塚市美術品選定評価委員会を2回開催した。

(7) ミュージアムコンサート

市民に美術館をより親しんでいただくため、テーマホールでコンサートを開催した。

日 時 2月25日(土) 14時～15時

内 容 「歌とヴァイオリンの調べに」と題し、ソプラノ歌手 岩崎 由紀子氏の独唱、田中 園子氏のヴァイオリン、西野 えり香氏・金子 雅代氏のピアノ演奏を楽しんだ。

参加者数 150人

(8) 所蔵品データベースの拡充

自宅でも美術館の所蔵品を楽しめるよう、ウェブ上で公開している所蔵品データベースについて、洋画・版画等305点のデジタル画像を追加・公開した。

4 展覧会観覧状況

(単位：人)

開館 日数 (日)	企画展					特集展					合計
	一般	高大生	小中生	未就学	小計	一般	高大生	小中生	未就学	小計	
308	17,424	748	1,974	401	20,547	29,411	488	3,262	920	34,081	54,628

※会期が年度をまたぐ展覧会については前年度の事業に含む。

5 施設利用状況（館事業利用を除く）

利用区分	利用日数（日）	利用団体数（件）	入場者数（人）
市民アートギャラリー	244	50	29,295
ミュージアムホール	43	44	1,894
アトリエ	48	46	818
計			32,007